令和7年度
むらネット九州

（豊かなむらづくりをめざして）







農林水産省
九州農政局

目　　次

令和７年度 農林水産祭むらづくり部門

1. 令和7年度(第 64回)農林水産祭むらづくり部門受賞団体…… 1

2. 三賞受賞団体の概要

天皇杯

・入谷の里山活性化協議会(宮城県　本吉郡南三陸町) …… 2

内閣総理大臣賞

・農事組合法人農村資源開発共同体(福井県　今立郡池田町) …… 3

日本農林漁業振興会会長賞

・竹子地区コミュニティ協議会(鹿児島県　霧島市) …… 4

3.農林水産大臣賞受賞団体(九州ブロック)の紹介

(1). 九州ブロック受賞団体位置図 …… 5

(2). 農林水産大臣賞

・幻の高来そば振興協議会(長崎県　諫早市) …… 6

・錦町農産物等直売所出荷協議会(熊本県　球磨郡錦町) …… 12

・竹子地区コミュニティ協議会(鹿児島県　霧島市) …… 19

豊かなむらづくり全国表彰事業

1.「豊かなむらづくり全国表彰事業」と「農林水産祭」 …… 25

2. むらづくり部門のこれまでの三賞受賞団体一覧 …… 26

3. これまでの受賞団体一覧表(九州県別)

・福岡県 …… 27

・佐賀県 …… 28

・長崎県 …… 29

・熊本県 …… 30

・大分県 …… 31

・宮崎県 …… 32

・鹿児島県 …… 33

ディスカバー農山漁村（むら）の宝

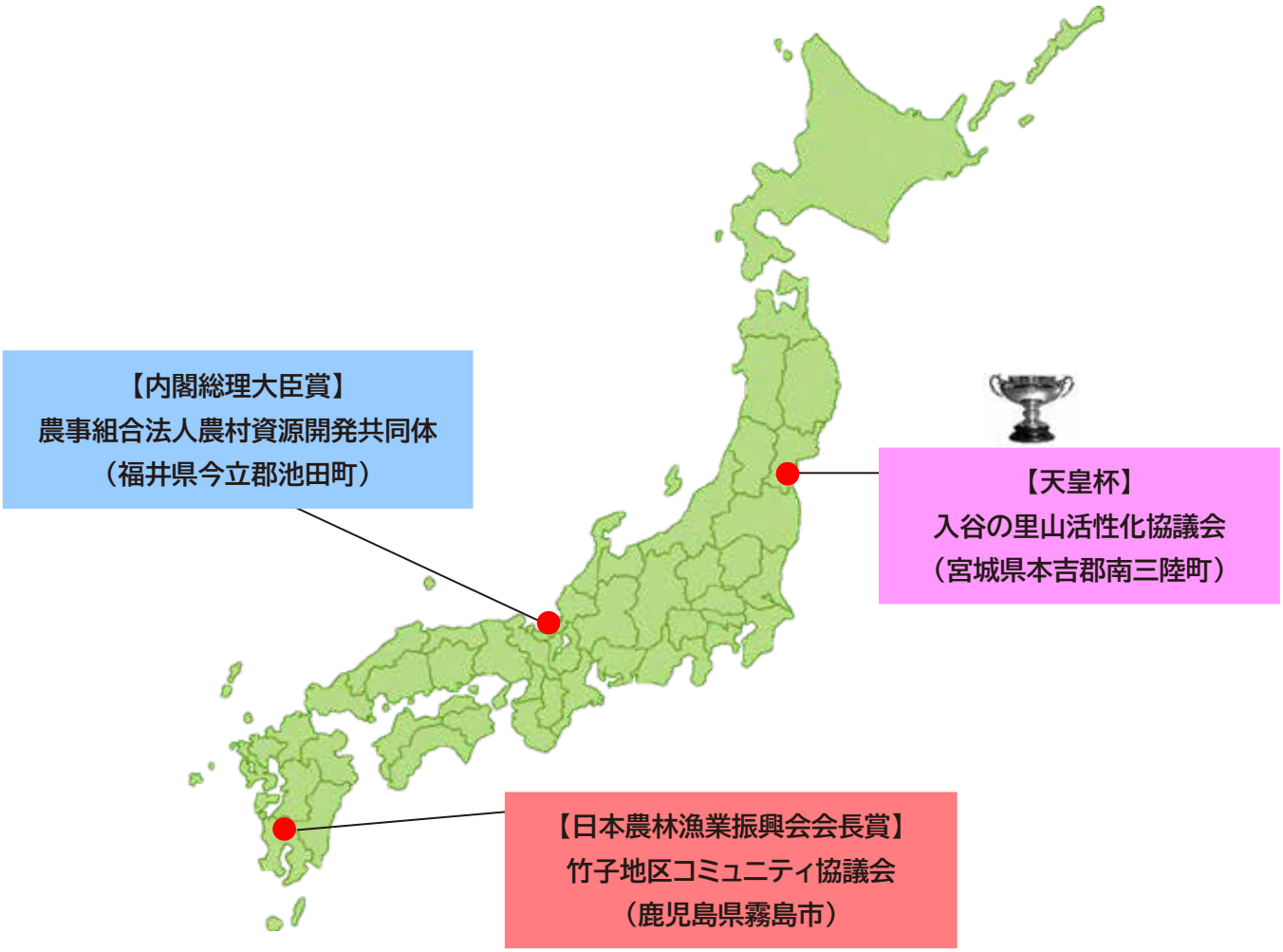
1.「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」とは？ …… 34

2.「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第 12回選定結果) …… 35

3. 九州農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定結果 …… 36

1. 令和7年度（第64回）農林水産祭むらづくり部門受賞団体

令和７年度（第６４回）農林水産祭における受賞者が 10 月１日に決定し、むらづくり部門では、豊かなむらづくり全国表彰事業の農林水産大臣賞受賞団体の中から、天皇杯等の三賞が決定しました。



令和７年度豊かなむらづくり全国表彰事業　農林水産大臣賞受賞団体

受賞団体名	所在地	受賞団体名	所在地
高松第三行政区ふるさと地域協議会	岩手県 花巻市	石原自治区	広島県 三次市
入谷の里山活性化協議会	宮城県 本吉郡　南三陸町	石畳地区	愛媛県 喜多郡 内子町
堀越集落	福島県 田村市	一般社団法人 三原村集落活動センターやまびこ	高知県 幡多郡 三原村
株式会社 美土里農園	栃木県 芳賀郡 茂木町	幻の高来そば振興協議会	長崎県 諫早市
農事組合法人 大田営農	埼玉県 秩父市	錦町農産物等直売所出荷協議会	熊本県 球磨郡 錦町
おおしの緑地会	千葉県 佐倉市	竹子地区コミュニティ協議会	鹿児島県 霧島市
農事組合法人 農村資源開発共同体	石川県 今立郡 池田町	伊計自治会	沖縄県 うるま市
西山の棚田振興協議会	三重県 伊賀市		
小川地域棚田振興協議会	和歌山県 海草郡 紀美野町		

2. 三賞受賞団体の概要

天皇杯

入谷の里山活性化協議会（宮城県 本吉郡 南三陸町）

～ 海と山の絆で苦難を超えて 次世代にしなやかにつなぐ ～

◆地域の沿革と概要

南三陸町は、宮城県の北東部に位置し、東は太平洋に面し、三方を標高 300～500m の山々に囲まれている。入谷地区は町内約 12,000 人の人口の中で 2,000 人弱が暮らす農村地区で、美しい里山の景観と豊かな森や田畑が広がっている。東日本大震災前から、地域にある自然の恵みや伝統文化を生かした学びの場の提供や交流促進を図り、農作業体験・モノづくり体験・調理体験などの体験プログラムの開発なども含め、グリーン・ツーリズムにも力を入れている。コロナ禍で迎えた震災から 10 年という節目の令和３年に「このまま応援しているだけではせっかく震災前から頑張ってきた入谷地区の取組が継承されなくなってしまう」と地域の中心にいた住民たちが若者を中心とした人材育成や新たな事業創出などに動き出し、当協議会が発足した。



◆むらづくり組織の概要

構成員として、入谷地区の「食・体験・宿泊」を担うことができる各種施設の団体が加盟しており、「南三陸まなびの里いりやど」、「ひころの里コンソーシアム」、「南三陸農工房」、「校舎の宿さんさん館」、「南三陸 YES 工房」、「入谷サン直売所」の６団体が主な構成員である。下は 20 代、上は 70 代と幅広い年齢層で、地元出身者も移住者も混ざり、男女様々なメンバーで和気藹々と取り組んでいる。

◆むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

① 農業体験施設「南三陸農工房」を利用して様々な野菜を育てており、農作業や収穫の体験を通じて町外からの来訪者との交流促進とファンづくりを行っている。また、近年若者の新規就農や地域で活躍する里山保全団体も発足している。

② 「入谷サン直売所」は、生産者の顔が見える場所としての大切さを意識して、継続的に取り組むことにより、年間１千万円の売上を上げている。

③ 令和６年には、「しおかぜ葡萄」という新たなブランド葡萄の販売を開始し、地域の所得向上に寄与している。

(2) 生活・環境整備面

① 旧小学校舎を宿泊施設「さんさん館」、江戸時代末期に建築された在郷の藩士住宅を体験施設「ひころの里」、旧中学校技術家庭科室を「南三陸 YES 工房」として活用している。

② 宿泊・学び・交流の拠点として、研修室や和室、食堂、ワーケーション棟なども整備した「南三陸まなびの里いりやど」は、南三陸町全体の来訪者を受け入れる場として機能している。

内閣総理大臣賞

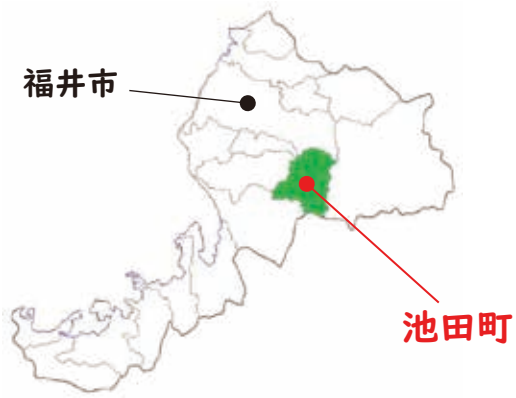
農事組合法人 農村資源開発共同体（福井県 今立郡池田町）

～ 山の恵のお裾分け コムニタに集って語って挑んで ～

◆地域の沿革と概要

池田町は、福井県南東部に位置し、北は福井市、東は大野市、南は岐阜県、西は越前市と南越前町に接し四方を山に囲まれている。

地形は急峻で、町の総面積の約 91％が山林で占められる中、稲作が盛んで、朝夕の寒暖差が大きく、品質が高い。また、降水量が多く、県下でも有数の多雪地帯であり、特別豪雪地帯の指定を受けている。



◆むらづくり組織の概要

昭和 59 年に「池田町農協青年部」が結成され、農業を軸とした地域おこし活動が開始された。その後、本格的に取り組むために平成 6 年に 20～40 代の 23 人が出資し「農事組合法人農村資源開発共同体」（通称：コムニタ）を設立した。平成 8 年には念願の活動拠点施設「ファームハウス・コムニタ」をオープンし、農業生産に加えて体験・飲食・宿泊事業を開始した。コムニタの現在のメンバーは組合員 21 名、雇用者 14 名で、それぞれが「事務」「農業」「宿泊・体験」「加工品」「米粉パン」の 5 つの部門に分かれ活動している。

◆むらづくりの取組概要

（1）農業生産面

① 設立当初から農薬を通常よりも 80％削減した減農薬、化学肥料を使用しない農法で米を生産し続け、平成 12 年から「ゆうきげんき正直農業」、平成 18 年から「生命に優しい米づくり」を先導した。また、令和 7 年からは、さらなる品質の向上を目的とした「未来へ耕す池田米」にも取り組み、池田町の環境保全型農業の推進に寄与している。

② 池田町産米を使用したお粥のレトルト、丸餅、かき餅、米粉 100％パンの他、豆乳スコーンやブランドトマトを利用したハッシュドビーフなど地元農産物を活用した加工品開発を行っている。さらに町産木材を活用したキッチンカーを製作し、コムニタの米粉 100％の米粉パンに池田町の産品を挟んだパニーニ風ホットサンドを販売するなど、地元農産物の普及やブランド化に貢献している。

。

（2）生活・環境整備面

① ファームハウス・コムニタは、池田町の良さを伝える交流拠点として宿泊や体験事業を展開し、町外の利用者に池田町の郷土料理を食事や体験として提供したり、農業体験、自然体験などを行い、食文化の伝承や農村生活への理解を促進するとともに、池田町民の交流の場にもなっている。

② 宿泊・体験事業により池田町の関係人口創出に貢献し、また、コロナ禍を契機にワーケーションの取組を開始し、移住希望者などの短期滞在の拠点にもなっている。

③ コムニタのメンバーは農村観光協会の役員や各地域のリーダーを担うなど、町全体の支援・土台作りに貢献している。

日本農林漁業振興会会長賞

竹子地区コミュニティ協議会（鹿児島県 霧島市）

～ 「山には木を 里には人を」今日なお生きる竹子共正会の教え～

◆地域の沿革と概要

霧島市は鹿児島県本土のほぼ中央に位置し、北部は国立公園である風光明媚な霧島山を有し、南部は豊かで広大な平野部が波静かな錦江湾に接し、湾に雄大な桜島を望むところにある。竹子地区は、霧島市北西の鹿児島空港近くに位置し、人口 783 名（令和７年４月現在）、水稲や茶、果樹、施設園芸、飼料作物を中心とした農業が営まれ、多彩な史跡、歴史文化、地域行事を通じて、助け合い・支えあいの連携が図られた地域である。



◆むらづくり組織の概要

むらづくりの母体となる「竹子共正会」が明治 29 年に発足し、長年にわたり地域活動の主体となり、地域課題に関する話し合いや課題解決に向けた具体的な取組を行ってきた。

竹子小学校の児童数減少に歯止めがかからない中、平成 25 年に「竹子小学校活性化委員会」が発足し、そこから地域住民を巻き込んだ「竹子の里を考える会」へと発展した。しかしながら、10 年後には竹子地区の人口が 700 名を割り込むことや人口流出の加速化が予想され、人口の維持・増加対策や住環境の整備・充実などが喫緊の課題となっていた。そこでこれまでの取組を継承し、異なる視点による取組を展開すべく、地区専属の地域おこし協力隊員を採用し、令和２年８月に「竹子地区コミュニティ協議会（通称：竹子っ好調会）」が設立された。竹子っ好調会は竹子共正会の出資を受け活動しており、30～80 代の幅広い年齢層の 38 名（移住者３名含）が、産業振興部、生活環境部、地域魅力アップ部、定住促進部、加工・販路促進部の５つの部会で活動している。

◆むらづくりの取組概要

（1）農業生産面

① 令和６年度から竹林整備事業に取り組み、竹材販売の他、筍の水煮や筍のドレッシングなど「竹」のブランド力を活かした加工品の開発で収益を確保している。

② 令和４年度から新たな特産品作りの一つとして梨と葡萄のミックスワインの製造、実証を行っている。初年度 450 本は完売し、現在は３年目の製造に取り組んでいる。

③ 竹子地区の魅力を直接都市住民に広く発信するために令和５年にアンテナショップ「じゃっど☆ラボ」を東京都大田区に開設した。

（2）生活・環境整備面

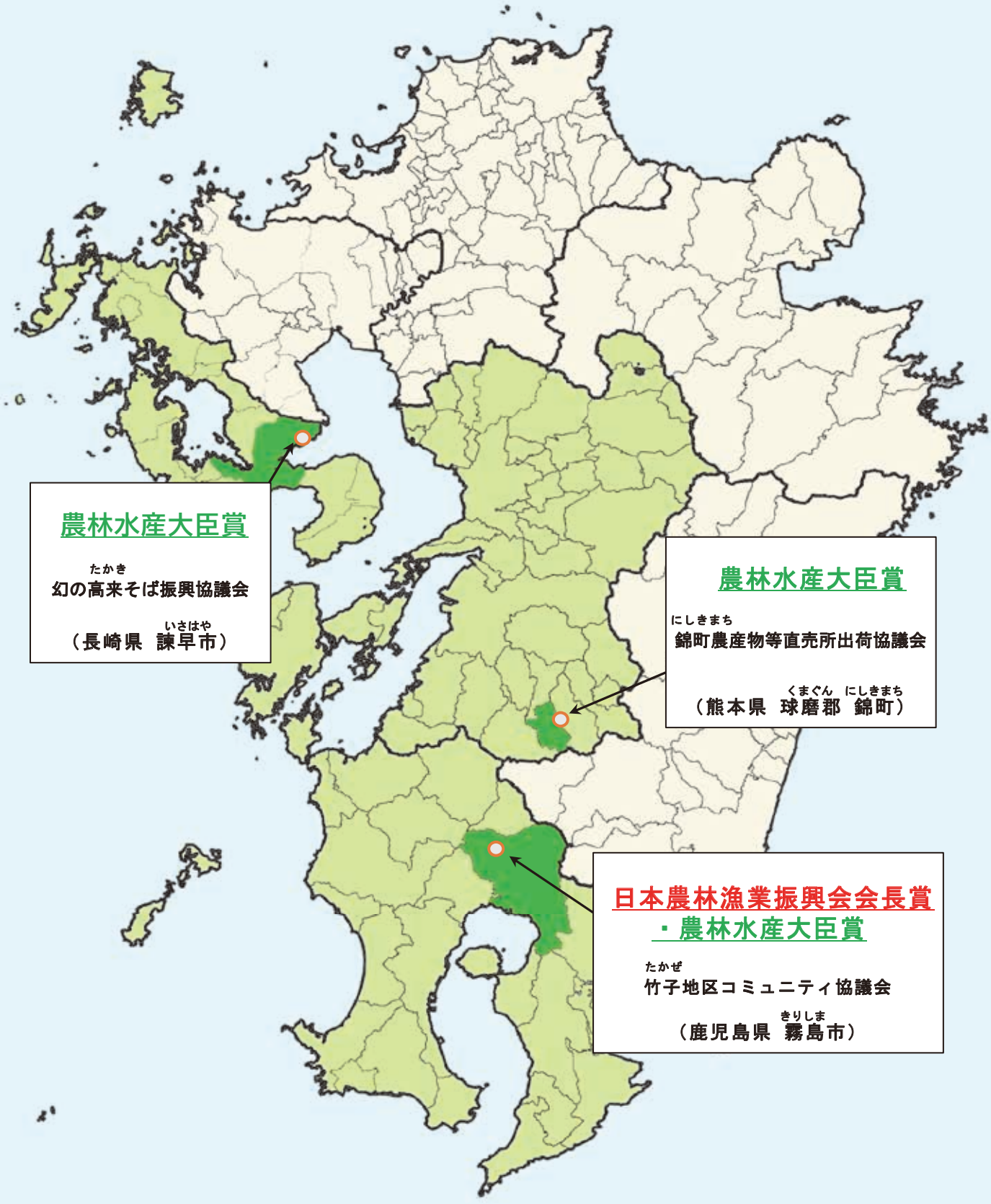
① JA 倉庫跡地を改修し、「ふれあいサロンたかぜバル」を開設した。昼は食堂やふれあいサロンとして使用し、夕方以降は予約制で、地域内唯一の居酒屋として営業するなど地域住民の交流拠点として活用されている。

② 平成 25 年から、９月にウォーキングイベント「竹子ふるさとウォーク」を開催しており、毎年 200 名近くが参加するイベントになっている。

③ 地域の空き家を借り受け、移住希望者が宿泊体験できる宿泊施設「さるくーる竹子」を開設しており、現在までに３世帯６名が竹子地区へ移住している。

3. 農林水産大臣賞受賞団体(九州ブロック)の紹介

(1)九州ブロック受賞団体位置図



（２）農林水産大臣賞

農林水産大臣賞受賞

轟渓流の名水が育んだ高来そばを守り次世代に
食べ継いでいくために

幻（まぼろし）の高来（たかき）そば振興協議会（しんこうきょうぎかい）

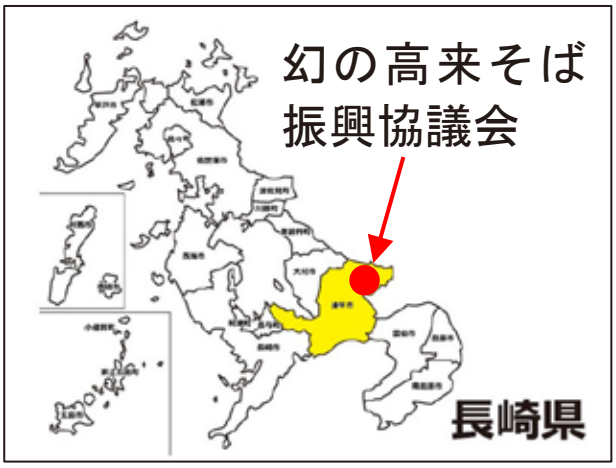
（長崎県諫早（いさはや）市）

■　地域の沿革と概要

高来町は、2005 年（平成 17 年）３月１日に諫早市、多良見町、森山町、飯盛町、小長井町と新設合併し、新市制による諫早市の一部となった。

多良岳から有明海に向かって南向きに広がる丘陵地と、住宅や商店、農業用ハウスなどが並ぶ平坦地帯とに分けられ、その標高差は約 1,000m 近くに達し、豊かな自然に恵まれた多良山系から流れ出る轟渓流の清水は、日本名水百選の認定を受け、県内外から天然の岩清水と光り輝く風景を求め、多くの人が訪れる場所になっている。

第１図　位置図



諫早湾干拓事業に伴って完成した広大な干陸地の一部には、環境と景観の保全を目的として菜の花やコスモスなどが彩りを添えている。

■　むらづくりの概要

１．地区の特色

高来町は、諫早市の東部に位置し、海岸近くの平坦地から多良山系の谷あいの中山間地にかけて農地が存在しており、土壌は安山岩を母岩とした赤色粘土集積赤黄色土が主である。

丘陵地では柑橘類を中心とした果樹、平坦地では水稲のほか、県内屈指の日照量がある利点を活かしきゅうり、いちご等の施設園芸産地が形成されている。近年では、にがうりの産地化が急速に進んでいる。

そばは、古くから高来町金崎地区を中心に自家用として栽培されているだけであった。

第１表　地区の概要

事　項	内　容	
地区の規模	旧市町村（昭和）	
組織の性格	機能的集団	
人口等		
	総人口	133,852人
	総世帯数	53,235戸
農業経営体数（内訳）	農業経営体数	2,214経営体
	個人経営体数	2,148経営体
	団体経営体数	66経営体
	（内、法人経営体数）	62経営体
農用地の状況（内訳）	総土地面積	34,179ha
	耕地面積	6,280ha
	田	3,170ha
	畑	3,110ha
	耕地率	18.4%
	一経営体当たり耕地面積	2.8ha

２．むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景


写真１　そばの開花

自家用としてのみ栽培されてきた高来そばの種子は、在来種であり、小粒で香り高く、ねばり強いのが特徴で、そば古来の風味とコシを味わうことができる。かつては、どこの農家でも米や野菜作りの傍らで栽培されていたが、時代とともに減少し、平成 20 年頃には高来町金崎地区でも、わずか数軒まで減少し、かつ収穫量も年々減少してきており、近い将来には幻と化すかもしれないと存続が危ぶまれていた。

そこで、高来そばの美味しさをもっと多くの人に知ってもらい、地域おこしにつなげようと、金崎地区に残った貴重な在来種数十 kg を分けてもらい、町内の休耕地などを利用してそば栽培をスタートさせるとともに、栽培からそば打ちまでの一貫した取り組みにより、高来そばを郷土の味としてＰＲしていくために、平成 22 年７月に地元農家を中心とした有志らが集い「幻の高来そば振興協議会」を設立した。

(2) むらづくりの推進体制

ア　幻の高来そば振興協議会

令和７年４月時点での構成員は、56 名（うち高来町 37 名、小長井町３名地区外 13 名、名誉会員３名）であり、うち認定農業者は３名、認定新規就農者１名となっている。

農業者以外は、高来町内の金融機関、町外の製麺業者、長崎県職員ＯＢ１名、地元選出県議会議員２名等となっている。

協議会の取組として、以下の活動を実施している。

① 幻の高来そばの栽培
② 幻の高来そばの保全、普及を図るための活動
③ 本明川河川敷地（高来地域）の維持管理のための活動

イ　組織図

組織体制は、会長、顧問の下、庶務部、生産加工部、技術向上部、イベント部、監事（第２図）で構成され、業務を担う。

① 庶務部・・・・・・総合企画、ブランド推進、会計、広報、お客様相談窓口
② 生産加工部・・・・栽培、収穫指導、種子保存、加工製品、試験、改善、開発、環境保全
③ 技術向上部（そば研究会）・・そば打ち勉強会実施、そば打ち道具管理、新メニュー試作、そば打ち勉強会の支援、指導員選出
④ イベント部・・・新そば祭りの運営、各種イベントの実施、スタッフの手配
⑤　監事・・・・・・会計監査

第２図　むらづくり推進体制図



ウ　関係機関の協議会へのサポート及び協議会との連携活動

① 国土交通省九州地方整備局　長崎河川国道事務所

・干陸地（※１）におけるそば栽培の占用許可

② 特定非営利活動法人　拓生会

・新そばまつり、コスモス祭り等各種イベントでの連携・支援

③ 諫早市　農林水産部　干拓室

・協議会活動の全体的なサポート、関係機関連携会議の主催他

④ ＪＡながさき県央　高来支店

・新そばまつりにおける農産物販売や軽トラック市等のバックアップ

⑤ 諫早市　高来支所

・そば打ち体験教室の会場提供等公民館活動の連携、新そばまつり運営支援

⑥ 十八親和銀行　高来支店、たちばな信用金庫　高来支店

・協議会会員。新そばまつり運営支援

⑦ （有）たかき

・当該会社の代表が協議会員。そば栽培の各種作業を受託している。

※１干陸地：諫早湾干拓事業による潮受堤防の閉め切りにより、本明川左岸に生まれた広大（約 220ha）な河川敷。広いところでは堤防から 1km を超える幅を有する。

■　むらづくりの特色と優秀性

１．むらづくりの性格

絶滅寸前だった「高来そば」を、協議会が主体となって種子の確保、生産面積・生産量の拡大を図り、10ha 超の作付、約 12t の玄そば収穫量の規模まで復活させた。

２．農業生産面における特徴

平成 30 年度に本明川河川敷地（高来地域）を利用した賑わいづくり社会実験事業実施者に選定され、干陸地での本格的な栽培が可能となり、広大な干陸地を利用し、生産量増加、産地維持を通して、干地利活用の推進環境保全及び地域社会、経済の活性化に貢献している。

また、灌水、追肥等は実施せず、排水と陽当たりの良い休耕地や耕作放棄地を再利用して無農薬で栽培している。

さらに省力化のために「（有）たかき」がコンバインによる収穫、脱穀作業を受託し、労力軽減を実現している。

(1) 種の保存活動

縄文時代に中国大陸から朝鮮半島を経て、長崎県対馬に伝来し、その後高来地域に広がり、土地の気候、風土にあった在来種として定着した「高来そば」の種を保存する目的で、耕作放棄地を活用した専用の採種圃場を設けて、他との交雑が生じないような体制を整えている。

(2) 休耕地、耕作放棄地、干陸地を利用した「高来そば」の生産拡大

休耕地、耕作放棄地、干陸地を活用したそば産地の拡大を通じ、平成 22 年の協議会発足後、作付面積は 10ha 前後を維持しており、農山村の持つ多面的機能の維持、地域の環境保全に寄与している。

特にそばの栽培面では、排水対策、高畝栽培、イノシシ被害対策を積極的に取り組むことで、単収は増加し、令和５年産の平均単収は全国平均の約２倍と全国トップクラスの実績をあげている（第２表）。



写真２　そばの収量検見

第２表　幻の高来そば振興協議会におけるそばの作付面積および収穫量

	生産者（名）	作付面積（ｈａ）					収穫量（ｋｇ）					平均単収（kg/10a）	【参考】全国平均単収比（%）	【参考】全国平均単収（kg/10a）※農水省
		全体	会員		（有）たかき		全体	会員		（有）たかき				
			面積	比率	面積	比率		収穫量	比率	収穫量	比率			
平成２２年	近隣農家よりそばの種子を約50kg譲受、栽培面積0.3ha						約1,500ｋｇ							
平成２３年	26	8.8	5.1	58%	3.7	42%	3,823	2,347	61%	1,476	39%	43.7	77	57
平成２４年	29	12.6	8.7	69%	3.9	31%	6,336	4,038	64%	2,298	36%	50.3	69	73
平成２５年	26	14.8	9.4	64%	5.3	36%	8,392	4,374	52%	4,018	48%	56.8	105	54
平成２６年	28	13.8	8.4	61%	5.4	39%	12,770	8,360	65%	4,410	35%	92.7	178	52
平成２７年	26	12.0	3.9	33%	8.1	67%	7,038	2,201	31%	4,837	69%	58.5	97	60
平成２８年	28	12.4	4.3	34%	8.1	66%	6,993	1,818	26%	5,175	74%	56.5	118	48
平成２９年	24	17.1	9.0	52%	8.2	48%	7,947	5,163	65%	2,784	35%	46.4	84	55
平成３０年	23	15.7	7.0	45%	8.6	55%	9,957	4,694	47%	5,263	53%	63.6	141	45
令和元年	23	12.6	4.1	32%	8.5	68%	14,143	7,953	56%	6,190	44%	112.2	173	65
令和２年	13	13.7	4.9	36%	8.8	64%	10,125	2,025	20%	8,100	80%	73.7	110	67
令和３年	13	9.9	4.6	47%	5.3	53%	6,750	3,635	54%	3,115	46%	68.2	110	62
令和４年	14	11.5	4.8	42%	6.7	58%	11,880	6,500	55%	5,380	45%	103.4	169	61
令和５年	14	11.3	5.8	51%	5.5	49%	11,925	6,288	53%	5,637	47%	105.5	199	53

※幻の高来そば振興協議会発足以前は自家用の栽培のみであったため、正確な数値把握はできていない。

(3) 「高来そば」の加工・販売

収穫した玄そばは、乾燥、検査後に一部を恒温冷蔵施設で協議会が保管し、残りは、（有）たかきに販売委託している。

協議会が主体となった地元消費に関しては、「３たて：挽きたて、打ちたて、ゆでたて」にこだわっているため、製粉は行わず、基本的に殻つきのまま保管している。

・生めん（パック入）：地元直売所「轟街道ふれあい市」、ＪＡ関連の直売所で販売している。
・冷凍生めん：会員が打った生めんを冷凍保存したものを毎月定期的に県外（石川県）の日本料理店に提供している。
・乾めん（袋入）：会員でもある製麺所が製造し、生めんと同じ直売所等で販売している。

３．生活・環境整備面における特徴

(1) 高来そばのブランド化、知名度向上

ア　新そばまつり

会設立当初から毎年 12 月に開催し、令和６年まで開催数 13 回を数える地域の一大イベントとなっている。



写真３　新そばまつり

イ　そば打ち勉強会

協議会の技術向上部（そば研究会）が主体となり、自分たちの技術を高めるために会員向けに定期的に行っていた「そば打ち勉強会」を、現在は広く門戸を開放して、一般向けに毎月第１木曜日に開催している。



写真４　そば打ち勉強会

ウ　食事処の開設

たちばな信用金庫が提携するクラウドファンディングで資金協力を募ったことをきっかけに、県内、関西、東京などの 144 人から合計約 210 万円の支援があり、平成 31 年３月 20 日に食事処がオープンされた。また、厨房設備を導入し、ざるそば、かけそば、どろりそば（※２）等の提供を行っている。

※２　どろりそば：

高来町金崎地区では、古来より大晦日に親戚縁者が集って、自家用に栽培したそばを使って年越しそばを打つ習わしがあった。

ただ、その時に打つそばの量が１家族１晩で食べきれるものではなく、近所に配っても余るほどの量であり、正月３が日を通して食べていたのが始まりで、いわゆる「まかない食」であった。



写真５　どろりそば

(2) 地元小学校の食育活動及び一般消費者との交流

高来西小学校の６年生を対象に、そばの種まき、収穫、そば打ち体験を毎年実施している。そば打ち体験や試食の時際は、保護者も一緒にそば打ち体験を行うなど、子供達が打ったそばを持ち帰って家族団欒の中でゆっくり食べてもらうようにしている。

令和６年度から公民館活動として、そばの播種、収穫、そば打ちの一連の体験が実施されている。



写真６　そば収穫体験

(3) 郷土食文化「どろりそば」の伝承

協議会が前述の食事処、新そばまつり、そば体験教室、小学校の食育等の様々な場で「どろりそば（釜揚げそば）」を消費者への提供により、多くの人が郷土食文化に触れる機会を設け、地域農業の振興と地域活性化に大きく貢献している。

(4) 干陸地（本明川河川敷）の環境保全活動

平成 30 年６月 14 日に本明川河川敷地（高来地域）を利用した賑わいづくり社会実験事業者に選定され、「高来そば」の栽培地としての活用を開始。当該地での栽培面積は、当初（平成 27 年）の試験栽培 6a から令和６年産には 2.72ha まで拡大している。

(5) 干陸地の新たな観光資源としての活用

拓生会が植栽するコスモスの開花時期と高来そばの開花時期が重なることで、来場者数の増加をもたらしている。

令和５年８月４日には、「地域協働の河川管理功労団体」として、令和５年度国土交通行政功労事務所長表彰（長崎河川国道事務所）を受けている。

農林水産大臣賞受賞

人と地域がつながる・ひろがる未来

にしきまちのうさんぶつとうちょくばいしょしゅっかきょうぎかい
錦町農産物等直売所出荷協議会

（くまぐんにしきまち
熊本県球磨郡錦町）

■　地域の沿革と概要

錦町は、熊本県南部の球磨地域のほぼ中央に位置している。この地域は急峻な九州山地に囲まれた盆地を形成しており、中央部を日本三大急流の一つである球磨川が東西に流れている。

また、錦町に加え、近隣のあさぎり町、多良木町の農地を潤す農業用水として、「疏水百選」・「世界かんがい施設遺産」に認定・登録されている百太郎溝がある。

第１図　位置図



百太郎溝は特別な指導者や資金援助もなく、子供からお年寄りまで総出の手掘りという、いわば農民の血と汗の結晶で完成したと云われ、本地域での住民主体のむらづくりの原点を感じさせる。

また、相良藩剣術指南役として名を馳せた丸目蔵人佐長恵（まるめくらんどのすけながよし）の隠棲地としても有名である。

■　むらづくりの概要

１．地区の特色

町中央部の低地一帯では水稲や葉たばこ、野菜、畜産等で農業経営が行われている一方、丘陵地のうち北部は茶、南部は果樹が盛んに栽培されている。　特に、錦町は「フルーツの里」と呼ばれるほど、梨や桃の県内有数の産地である。

第１表　地区の概要

事　項	内　容	
地区の規模	集落	
組織の性格	機能的集落	
人口等		
	総人口	10,026人
	総世帯数	3,998戸
農業経営体数（内訳）	農業経営体数	571経営体
	個人経営体数	545経営体
	団体経営体数	26経営体
	（内、法人経営体数）	18経営体
農用地の状況（内訳）	総土地面積	8,504ha
	耕地面積	1,553ha
	田	1,200ha
	畑	353ha
	耕地率	18.3%
	一経営体当たり耕地面積	2.7ha

２．むらづくりの基本的特徴

⑴ むらづくりの動機、背景

平成 11 年に「食料・農業・農村基本法」が策定され、平成 14 年に米づくりをはじめとした農業の構造改革、食の安全安心、都市農村交流を３つの柱としたプランが作成されるなど農政は大きな転換点を迎えていた。

米づくりが自主的・主体的調整体制に転換する中、米に代わる収入や代替作物を模索し、出口（販売）戦略の重要性にいち早く気づいた一部の農業者が、町が検討していた直売所の開設計画に賛同、そこから 20 余年にわたる「直売所」を核とした地域活性化の拠点づくりが始まった。

錦町では古くから、水稲、野菜、果樹、お茶、肉用牛、酪農など多種多様な農畜産業が営まれてきたが、ほとんどの生産物は、農業協同組合などを通して地域外へ出荷されており、地域内の流通経路がなかった。

そこで、「まずはやれることからやってみる」の精神のもと、平成 12 年に農家有志 30 名程度が集まり、「町の多様な地域資源の域内流通の確立」「農業の担い手確保と雇用創出」を目的とし、「地域に寄り添い、消費者の求める農産物を安定的に供給する直売所」をテーマに、農産物直売所の開設に向けた課題を整理し、町とともに協議を重ねた。

安定した農産物の供給について、試験的に平成 12 年から月１回、錦町役場前で朝市を開催。直接、消費者ニーズを知る場を設けたことにより、直接販売の実績と自信につながった。

そして、平成 14 年４月に、町内の専業農家や惣菜加工業などの兼業農家などが集まり、錦町農産物等直売所出荷協議会（以下「協議会」という）が発足、平成 15 年１月には、道の駅錦及び錦町農産物直売所「くらんど市」が完成※し、協議会は、錦町からの委託（平成 18 年３月からは指定管理）を受けて当直売所の運営を開始した。



写真１　錦町農産物等直売所出荷協議会

運営開始後は、朝市で培った経験を生かすとともに、消費者ニーズに応える形で販売品目を増加させつつ、後述するイベントの開催等に取り組んできた。

こうした農業者有志で始まった活動はその熱意と実績により多くの人を巻き込み、買い物の場のみならず、Ｕターン就農の受け皿や雇用の場、生産力の維持による農用地の保全、多くの会員や住民の交流の場、都市農村交流の拠点として発展している。

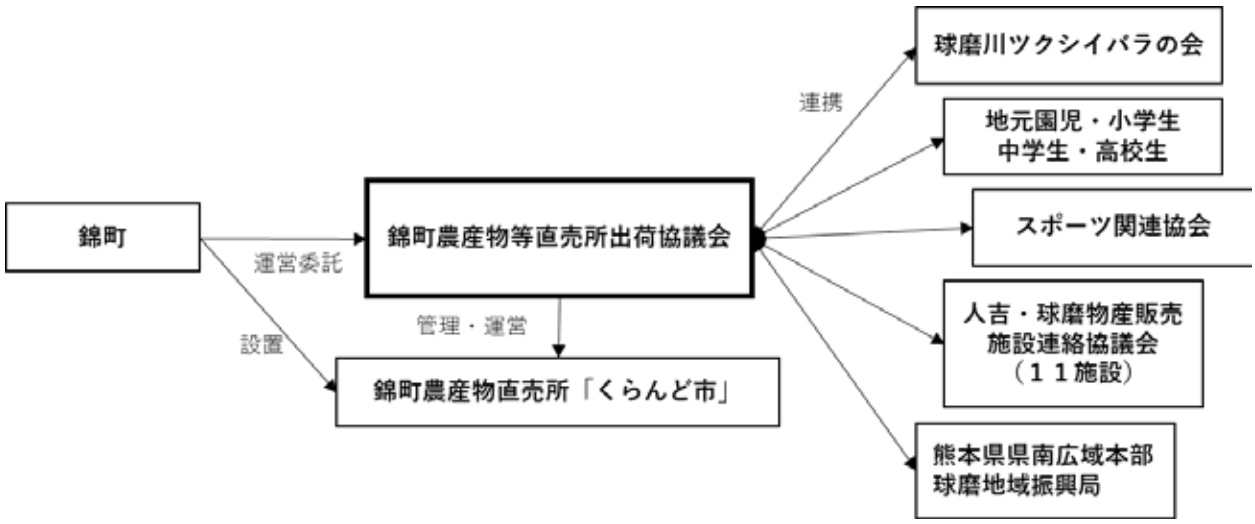
※経営構造対策事業（経営体育成緊急支援事業）を活用。売り上げが順調に推移し、会員が増加したことに伴い、過去３回にわたり売り場を拡張している。

(2) むらづくりの推進体制

ア　活動体制

複数人の農家有志で始まった活動が会員数 117 戸の取組として発展、農業者を中心に商・工事業者などが会員となっており、幅広い住民の連携活動となっている。

第１図　活動体制

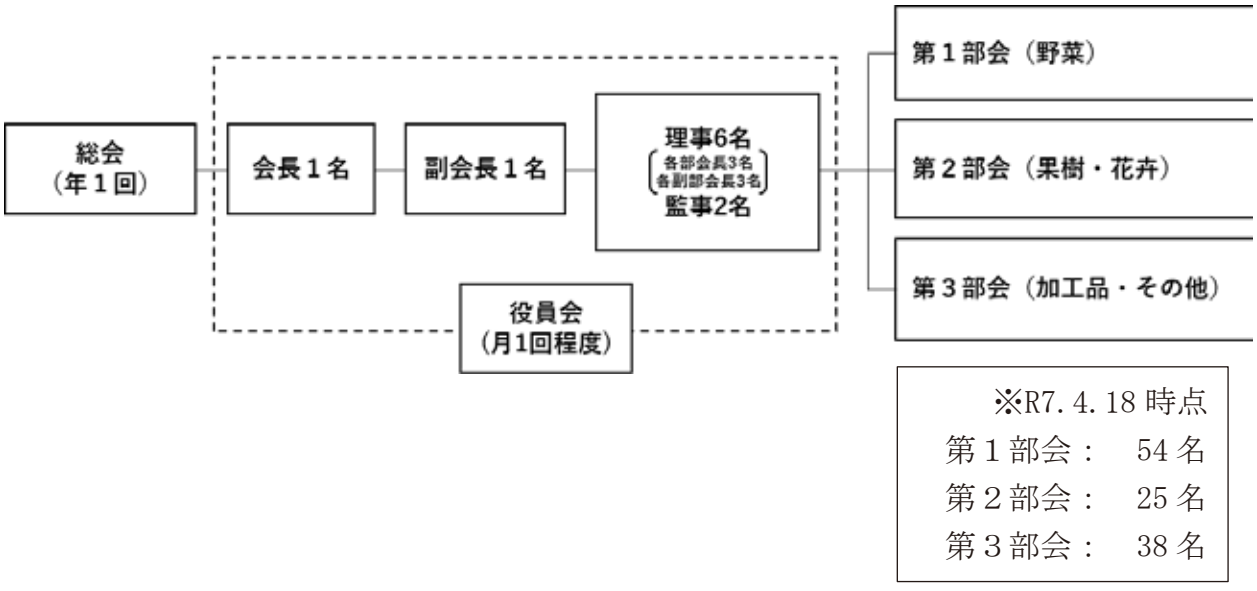


イ　運営方法と組織構成、構成員

第１部会（野菜）、第２部会（果樹、花卉）、第３部会（加工品、その他）の３部門を有し、各部会長、副部会長を理事に含む役員会を月に１回程度、総会を年１回行い、各部からの提案を組織として実行に移す体制が整えられている。

また、県や市をはじめとする行政機関や地元の教育機関や人吉・球磨地域の物産販売施設の協議会等と連携し、活動の分野を広げている。

第２図　むらづくり推進体制図



※R7. 4. 18 時点
第１部会：　54 名
第２部会：　25 名
第３部会：　38 名

■　むらづくりの特色と優秀性

１．むらづくりの性格

錦町の農家有志が集まって地域活性化の拠点づくりのために協議を重ね、尽力したことで、当協議会が設立され、道の駅及び農産物直売所が建設された。その後も、協議会や直売所の運営はもとより、地域内外の関係者と協力しながら各種イベントや生活支援等について活発に活動している。

２．農業生産面における特徴

(1) 農産物の品質向上・収量増加

協議会は、農産物の高付加価値化を目指し、地域で廃棄されていた球磨焼酎の酒粕を原料に培養された、光合成細菌含有の土壌改良剤「くまレッド」に着目。会員の協力で実証を重ねたところ、農産物の品質向上や収量増加の効果が確認されたため、部会に活用を呼びかけ講習会を開催し、普及を図ることで、直売所農産物のブランド化に取り組むとともに、地域循環型の農業やSDGsの目指す「持続可能な世界」への取組を実践している。

(2) 農家の所得向上と地産地消

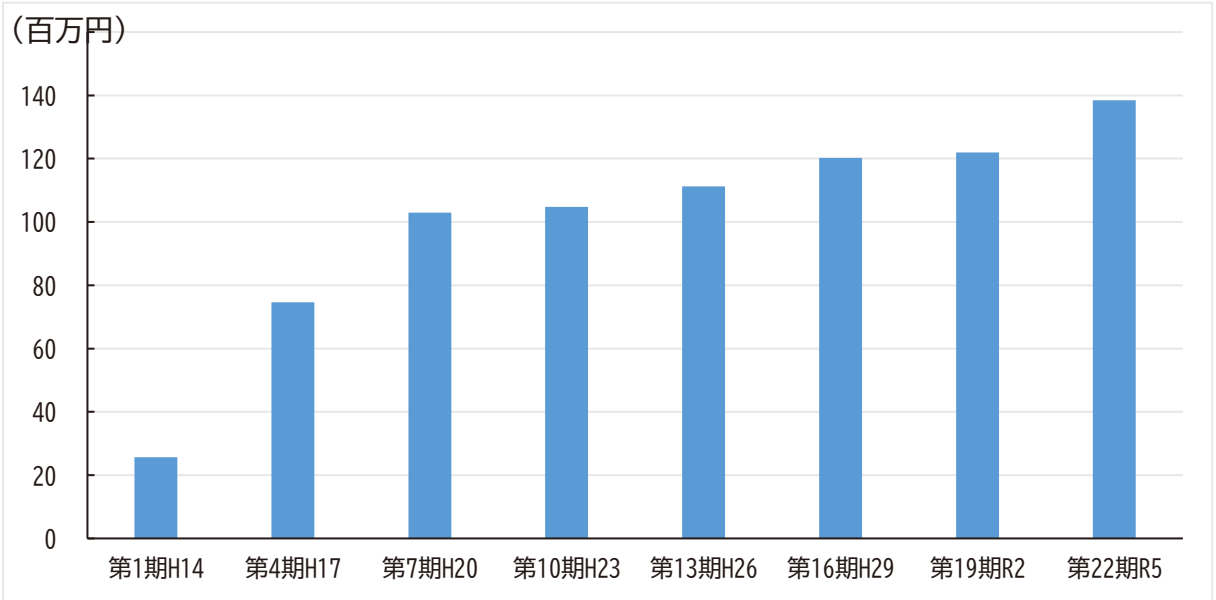
協議会は消費者ニーズに応えるため、名産の桃や梨をはじめとする農産物、創意工夫を凝らした手作り饅頭、盛んな畜産を活かしたホルモン煮込み、豚足等の加工品を販売するなど、地域の特色を生かした収益活動に取り組んでいる。

また、会員の農産物を第３部会員の加工業者が原材料に使って加工品を作るなど、会員同士の協力体制が自然発生的に行われている。

さらに、同じ球磨地域で標高の高い「道の駅子守唄の里五木」と連携し、お互いの農産物や加工品をそれぞれの直売所で販売するなど、相互補完の体制も整えている。

その他にも協議会員自らが、くらんど市パンフレット作成やホームページを制作、SNSでの情報発信等、くらんど市をPRすることで、農家の所得向上並びにくらんど市の増収に努めている。

第３図　売上の推移



３．生活・環境整備面における特徴

(1) フェアやイベントの開催による地域活性化

協議会では地域住民の交流の拠点とすべく、月１回のガラポン抽選会に加え、毎年８月に開催する「梨まつり」など、季節ごとにフェアを実施、さらに創業 20 周年を迎えた令和５年には、記念イベントとして「くらんどつながる市」を開催。直売所の隣の広場では、ご当地グルメを提供するとともに、町内の観光情報発信も行い、観光施設へ来場者が繋がるようＰＲも実施。直売所裏の公園では、教育委員会やスポーツ関係協会など各種団体と連携し、子どもから大人まで手軽に楽しめるスポーツ体験のブースを設けた。特にワナゲは、高齢者にとっての健康づくりとして好評を博した。また、会員の発案によるキャンプテントや焚き台、防災学習、ステージイベントを実施した。

地域住民のみならず宮崎県や鹿児島県の来客も多く、毎年のイベントへと発展。毎年テーマを設定し、令和７年は「食を支える人」として、町内のこども園・保育園と連携し、園児の想像豊かな作品を数多く展示した。

これらはイベント会社でなく自分たちの自発的な取組であり、例えば交渉が得意なメンバーは他団体との折衝を、企画が得意なメンバーはイベントの企画運営を、パソコンが得意なメンバーはポスターやチラシ、ＨＰを制作するなど、それぞれの発想や得意分野を生かしたものとなっている。

さらに自分たちで企画・運営するため、普段つながりのない会員や消費者の交流が生まれ、また、地元の球磨川ツクシイバラの会や高校生などにもボランティアで参加いただくことで農業振興だけでなく、高齢者の生きがい、町民の連帯感、支えあいの地域コミュニティの形成や交流に繋がっている。



写真２　イベントの様子



写真３　園児による「食を支える人」展



写真４　ワナゲ



写真５　防災学習

(2) 直売所をフックとした都市と農村の交流活動

協議会が錦町産の農産物等を地域外でもＰＲすることで、知名度の向上、交流人口の拡大、関係人口の創出に繋げている。設立当初から県庁や熊本市内繁華街での販売会を実施し、消費者の声を生産活動に還元。また、がんばるけん熊本機構、東京熊本県人会と連携し、平成 28 年からは、東京都杉並区で開催される「座の市」、令和４年からは東京熊本県人会総会、熊本ゆかりの音楽イベントにて、錦町のＰＲや農産物等の販売を行っている。また、平成 30 年からは、錦町出身者が営む東京都品川区の居酒屋にて、農産物、球磨焼酎など錦町グルメを楽しみながら交流する町主催イベント「にしき会」（東京・大阪・熊本開催）に発展している。

さらに、インスタグラムや Facebook を活用し、日ごろの出荷物の情報やイベントの開催内容を発信して、集客力を上げている。認知度があがり、売上があがることで、新規会員の獲得にもつながっている。



写真６　東京熊本県人会での物販



写真７　東京にしき会

(3) 豪雨災害に遭われた方への支援「お野菜配布活動」

熊本県南部に甚大な被害をもたらした令和２年７月豪雨では、協議会は地元の豪雨災害支援チーム「チーム川村駅」と連携し、令和２年９月から「息の長いサポートを」という考えのもと、相良村の仮設住宅を中心に野菜配布活動を開始。令和３年 12 月まで約 16 ヵ月間、ほぼ毎週活動し農産物等の提供を行った。活動は、復旧が一段落した令和４年以降も生活支援と見守りを兼ねて年数回継続している。





写真８　仮設住宅での活動状況

(4) 雇用創出・多様な人材の活躍

錦町では高校を卒業した方の多くが町外に転出しており、いかに若者に町にとどまってもらうか、一度転出した方のＵターン等をいかに確保するかが課題となっている。

協議会は設立当初から直売所を核とした地域活性化が「農業の担い手確保や雇用創出に繋がる」とし、直売所での販売のみならず域外での販路開拓に取り組んだ結果、販売額は設立当初の平成 14 年の 2,500 万円から直近の令和 6 年度は 1 億 3,000 万円を突破しており、若手のＵターン就農の受け皿になるとともに、協議会の従業員を増員するなど、地域の雇用創出にも大きく貢献している。

また、協議会では年齢や性別に関わらず多様な人材が活躍している。会長は 40 歳代、理事６名のうち３名が 30 歳～40 歳代と若い世代が多く、副会長１名、理事２名、監事２名、正社員１名が女性であり、ボーダレスな組織が形成されている。また、売り上げの増加とともに従業員も増強しており、令和６年度は正社員を１名増員の２名へ、臨時雇用も２名増員の６名へと増員し、地域の雇用創出へ貢献している。

さらに協議会には、農福連携に取り組む福祉事業所にも働きかけ、障がい者が手掛けた農産物や加工品も販売している。

地域の景観保護活動（除草作業）に地元高校生がボランティアで参加していたつながりから、協議会が主催する各種イベントにもボランティアで参加している。

また、町内小学校の社会科見学を積極的に受け入れており、生産された農産物の販売風景を見てもらうことで、農業の魅力アップや食農教育に繋がっている。





写真９　地元高校生のボランティア

日本農林漁業振興会会長賞・農林水産大臣賞受賞

「今日も明日も10年後も住みたい竹子」を目指したむらづくり

竹子（たかぜ）地区コミュニティ協議会

（鹿児島県霧島（きりしまし）市）

■　地域の沿革と概要

霧島市は、県本土のほぼ中央に位置し、平成 17 年 11 月、国分市と姶良郡溝辺町・横川町・牧園町・霧島町・隼人町・福山町の１市６町が合併して誕生した。総面積は約 603 ㎢、人口は 122,441 人（令和７年 10 月１日現在）である。

市の北部には風光明媚な霧島山があり、南部は豊かで広大な平野部が波静かな錦江湾に接し、夏場の冷涼な気象条件を生かした丘陵森林農業地域と温暖な気候の田園住宅地域で農林水産業が営まれており、これらの気象条件等を活かしたお茶及び梨、ぶどう等の果樹、肉用牛、採卵鶏等の畜産が盛んである。

第１図　位置図



■　むらづくりの概要

１．地区の特色

竹子地区は、霧島市の北西に位置し、旧溝辺町の豊かな山林に囲まれた標高 330m 程度の丘陵地にあり、418 世帯、人口 780 人（令和７年 10 月１日現在）の地域である。

鹿児島空港や溝辺鹿児島空港ＩＣ（九州自動車道）から車で 10 分程度と交通アクセスが良いところである。

「山には木を 里には人を」の郷土訓のもと、山づくりや人づくりに取り組まれ、今もその意気込みを受け継ぎ、様々な取組が行われている。

第１表　地区の概要

事　項	内　容	
地区の規模	集落の集合体	
組織の性格	地縁的集団	
人口等	総人口	780人
	総世帯数	418戸
農業経営体数（内訳）	農業経営体数	259経営体
	個人経営体数	246経営体
	団体経営体数	13経営体
	（内、法人経営体数）	13経営体
農用地の状況（内訳）	総土地面積	6,350ha
	耕地面積	1,180ha
	田	254ha
	畑	922ha
	耕地率	18.6%
	一経営体当たり耕地面積	4.6ha

注：人口等は竹子地区、それ以外は旧溝辺町の数値

２．むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

ア　「竹子地区コミュニティ協議会」以前の取組

竹子地区のむらづくりは、古くは明治時代中期まで遡り、水田の水争いが絶えないことを憂いた青年たちが、地域一体となって課題解決に取り組むため、明治 29 年「竹子青年共正会」を立ち上げたことに始まる。翌年には、地区全戸参加の自治組織として「竹子共正会」と名称を変更し、財源確保のため官有林の払い下げを受け、雑木林を伐採し、造林事業の開始及び一部を採草放牧地として開拓するとともに、道路改修、神社修築などに取り組んだ。昭和 20 年頃には木が大きく育ち、収入が得られるようになり、道路拡幅、小学校増築、公民館活動、簡易水道の設置・運営など、竹子地区に還元する仕組みを構築してきた。

イ　竹子地区コミュニティ協議会へのあゆみ

竹子地区は、長年にわたり「竹子共正会」を中心とした住民自治とむらづくりに取り組んできたが、地元竹子小学校の児童数が平成元年の 113 名をピークに減少に転じ、平成 25 年には 50 名を切る状況になり、存続が危ぶまれるようになっていた。このように人口減少・高齢化等の今日的課題への対応が迫られるようになってきたため、「竹子小学校活性化委員会」を発足し、竹子小学校の活性化に向けた話し合い活動が始まった。

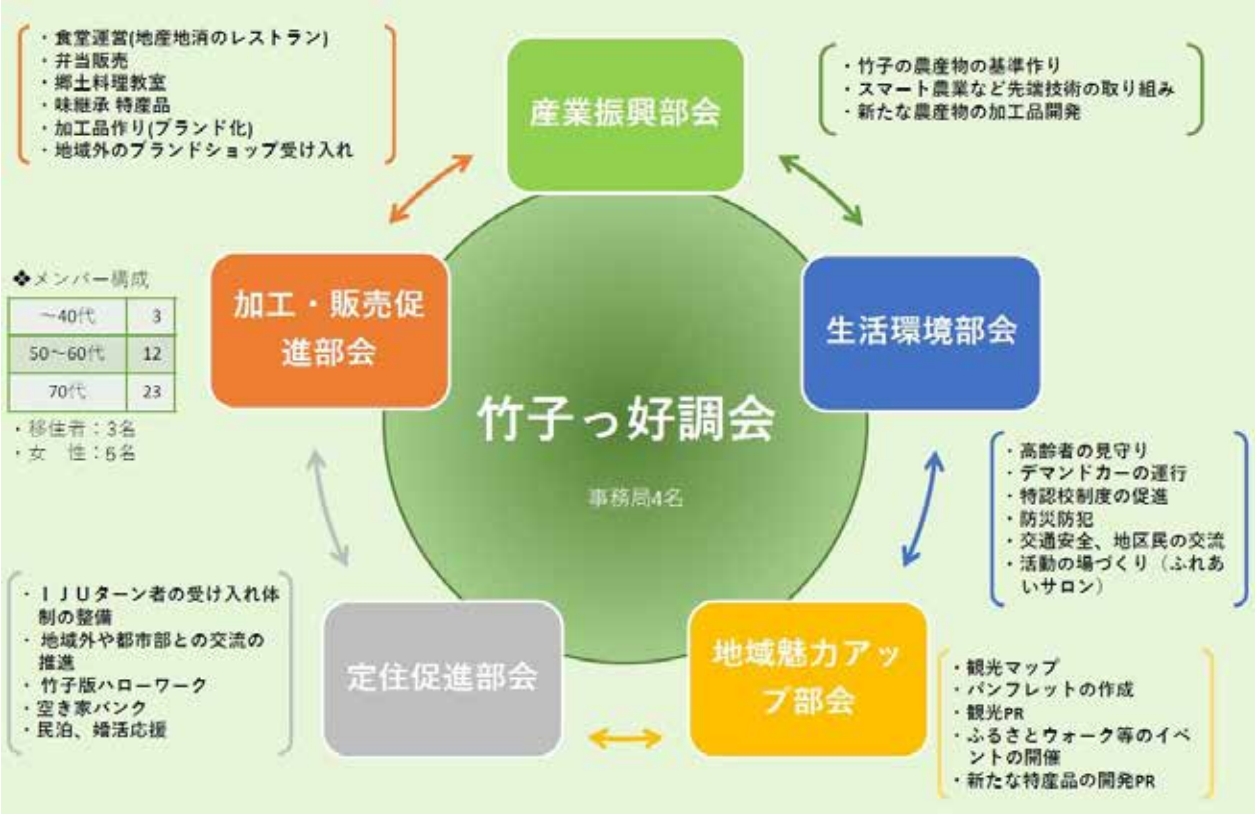
その後、「竹子小学校活性化委員会」は「竹子の里を考える会」に発展し、平成 28 年には地区全体の課題共有・現状把握を行い、解決策を検討、竹子地区の魅力発信、移住者の受入れ対策などを含む包括的な地域活性化案をまとめるとともに、地域外から児童を受け入れる特認校制度の導入や、鹿児島大学との民泊交流、ウォーキング大会の開催など地域外からの交流人口の拡大に努めてきた。

しかしながら、人口減少と外部への流出を食い止めるまでには至らず、いよいよ活性化案の実行が喫緊の課題となってきた。そこで、令和２年８月に、多彩な職歴、実績を有する人材を地域おこし協力隊員として配置し、移住者や共正会の有志による「竹子地区コミュニティ協議会」、愛称「竹子っ好調会」を実行部隊として組織した。

(2) むらづくりの推進体制

「竹子地区コミュニティ協議会」は、「竹子共正会」の出資を受け、連携して活動を行っている。「竹子の里を考える会」で整理された活性化案を実現するため、「竹子地域まちづくり実施計画」を作成し、「今日も明日も 10 年後も住みたい竹子」をスローガンに掲げ、産業振興部、生活環境部、地域魅力アップ部、定住促進部、加工・販売促進部の５つの部会を整備し、部会や会員同士の連携を図り活動している。令和７年４月時において、38 名で構成され、移住者３名も含まれている。

第２図　むらづくり推進体制図



■　むらづくりの特色と優秀性

１．むらづくりの性格

竹子地区コミュニティ協議会は、地域の人口減少や高齢化等の課題の深刻化に伴う地域活力の低下を新たな視点で解決するため、明治後期に創設された自治組織である「竹子共正会」（現在は公益財団法人）の有志により設立された組織である。竹林整備、特産加工品の開発、「ふれあいサロンたかぜバル」の設置、移住体験施設「さるくーる竹子」の開設、都市部のアンテナショップ「じゃっど☆ラボ」の開設など、ビジョンや話し合い活動に基づいた取り組みにより、地域農業の振興、交流人口・関係人口の拡大を通じた地域活性化を進めている。

２．農業生産面における特徴

(1) 竹子地区の「竹」を活かした取り組み

竹子地区では、林業の衰退や竹林需要の減少、安価な筍の輸入増加などにより竹林が放任傾向にあり、環境保全上の問題となっている。

「竹子っ好調会」では、会の運営費を自力で稼ぐべく「竹で絶好調大作戦」と題し、竹子の「竹」のブランド力を活かしたプロジェクトを立ち上げ、取組を行っている。

令和６年度から竹林整備事業に取り組み、竹材販売のほか、筍の水煮や筍のドレッシングなど地産を生かした加工品の開発による収益を確保している。竹林整備を行ったことで、地域住民から、綺麗になった竹山を維持したいという声が上がるなど、竹林整備に対する機運が高まっている。



写真１　竹林整備の様子



写真２　筍の水煮、ドレッシング

(2) 農地の整備と新たな特産品づくり

竹子地区の北部に広がる畑地帯「竹子原（たかぜばる）」は、耕作条件が悪く、農業の近代化を進めるためには、基盤整備が必須条件として、昭和 57 年に県営畑地帯総合整備事業竹子原地区に着手し、137ha の基盤整備と畑地かんがいが導入された。

耕作条件が整い、担い手農家 35 戸を中心に、茶、果樹、畜産を主体とした農業が展開され、お茶、果樹を中心に後継者も確保され、現在 196ha の農地が維持されている。

また、担い手農家のうち、４人が「竹子っ好調会」のメンバーとして活動しており、令和４年度から、竹子の新たな特産品づくりの一つとして、担い手農家と連携し、梨とぶどうのミックスワインの製造、実証を行っている。食用の梨、ぶどう数種類を組み合わせ 500ml に対し約 0.6 kgの果実を贅沢に使用している。初年度に手掛けた 450 本は、クラウドファンディングを利用した販売を行い、完売となった。規格外品などやむなく廃棄される農産物を活用した、竹子の特産品となるワインができたことでその流れが広がり、個人でもワインを作ってみようといった動きも出始め、６次産業化の促進にもつながっている。



写真３　竹子原の台地



写真４　竹子産梨とぶどうのミックスワイン

(3) 都市住民への「竹子」ブランドの魅力発信

竹子地区では、地区の魅力を直接都市住民に広く発信しようと、東京都出身の地域おこし協力隊員の協力のもと、令和５年、農村地域の１集落としては異例の都心のア

ンテナショップ「じゃっど☆ラボ」を東京都大田区に開設した。

23 ㎡ほどの店舗だが、竹子直送の野菜、果物、加工品を販売しているほか、農産物を使った総菜、弁当、菓子なども販売しており、鹿児島県出身者はもとより大田区地元民をはじめ、関東圏からも多く来店し、コミュニティサロンとしても賑わいをみせている。この取組をきっかけに、「じゃっど☆ラボ」は、霧島市全体を巻き込んだアンテナショップとして、令和７年５月にリニューアルオープンしている。





写真５、６　東京都大田区のアンテナショップ「じゃっど☆ラボ」

３．生活・環境整備面における特徴

(1) ふれあいサロンたかぜバル

竹子地区では、地域内に食堂が無いことや地域住民の交流の場が不足していることが課題となっていた。そこで、JA 倉庫跡地を会員自らも参加して改修し、念願の地域の交流拠点「ふれあいサロンたかぜバル」を令和３年７月にオープンした。

「たかぜバル」とは、ＢＡＲ（バル）と竹子地区北部の畑地帯「竹子原（たかぜばる）」をもじって名付けられた。昼は食堂やふれあいサロンとして使用し、夕方以降は予約制で、地域内唯一の居酒屋として営業し、地域住民の交流拠点として活用されている。「たかぜバル」で提供される地産地消メニューは話題となり、地域外からの利用者も急激に増加し、交流人口の増加につながっている。

また、「たかぜバル」では、地域の筍を活用した筍の水煮やドレッシングの他、切り干し大根、竹子地区の地鶏を使った鶏めしの素や、スープなど様々な加工品を開発している。なかでも郷土菓子（ふくれ菓子、あくまき）を使用したオリジナル菓子「灰！HIGH！！たかぜ」は、県外のホテル、大手スーパーに採用され販売が行われている。





写真７、８　地域の交流拠点「ふれあいサロン たかぜバル」の外観と内部

(2) 竹子ふるさとウォーク

竹子地区では、霧島市旧溝辺町の出身者で構成される「東京みぞべ会」から「年に１度のイベントを地元で行いたい」という声が上がったことをきっかけに、平成 25 年から「竹子ふるさとウォーク」を実施しており、令和７年度で第 14 回を迎えている。

「竹子ふるさとウォーク」は例年９月に開催されており、地区内に広がる田園地帯で黄金色の稲穂と真っ赤な彼岸花が美しいコラボレーションを楽しめるイベントとなっている。美味しい霧島茶をはじめ地元の食材を使ったおもてなしが人気で、毎年 200 名近くが参加している。



写真９　竹子ふるさとウォークポスターと、竹子ふるさとウォークの様子

(3) 竹子版空き家バンク（さるくーる竹子）

竹子地区では、「定住促進部」が中心となり、令和５年度から、地域の空き家を持ち主から借り受け、移住を考えている人が宿泊体験できる宿泊施設「さるくーる竹子」を開設している。

「さるくーる竹子」は、竹子地区での移住を考える家族連れなどが、一定期間、竹子での暮らしを体験できる施設となっており、移住後の地域とのミスマッチのリスクを減らすことが可能となっている。「さるくーる竹子」の体験を経て、現在までに３世帯が地域へ移住している。



写真 10　「さるくーる竹子」と看板

1.「豊かなむらづくり全国表彰事業」と「農林水産祭」

◆豊かなむらづくり全国表彰事業

農山漁村で、集落や校区、市町村等を活動範囲とする団体の農林水産業を核とした生活・文化等を含む幅広い地域活動を表彰する事業で、昭和 54 年度から実施しています。

優良事例を表彰し、その業績発表等を行うことで、地域ぐるみの連帯感の醸成及びコミュニティ機能の強化を図り、農林漁業や農山漁村の健全な発展に繋げることを目的としています。

◆農林水産祭

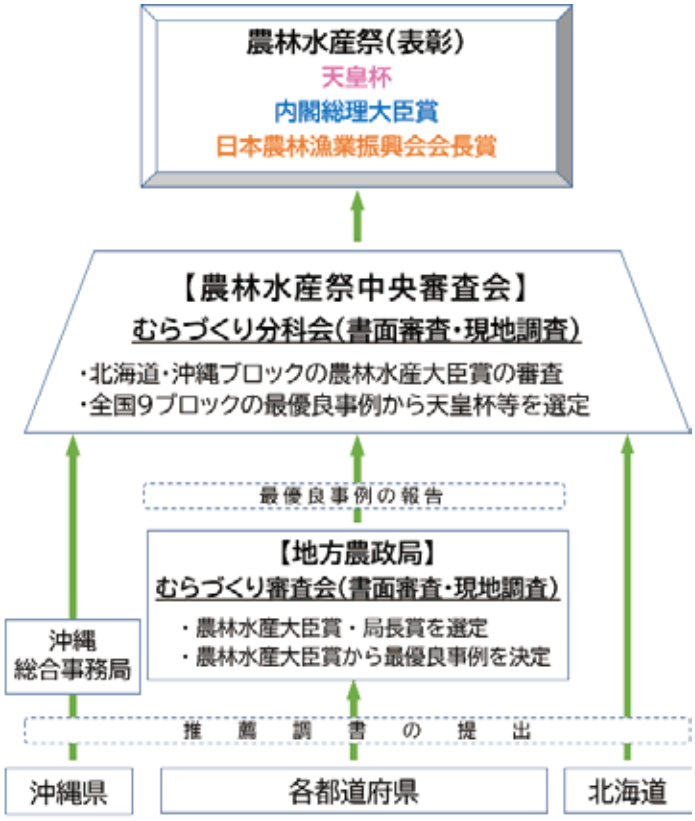
農林水産業と食に対する認識を深め、農林水産業の技術改善及び経営発展の意欲高揚を図るため、国民的な祭典として昭和 37 年から毎年 11 月 23 日の勤労感謝の日を中心に開催しています。

全国各地で農林水産祭参加行事として開催される約 280 の農林水産物の品評会・コンクール等の農林水産大臣賞受賞者の中から、毎年、 7 部門※の天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞が選定されます。

むらづくり部門では、「豊かなむらづくり全国表彰事業」で選定された農林水産大臣賞受賞団体の中から天皇杯等が選定されます。

※ （農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくり）

むらづくり部門の審査・表彰の流れ





天皇杯



農林水産祭式典

2. むらづくり部門のこれまでの三賞受賞団体一覧

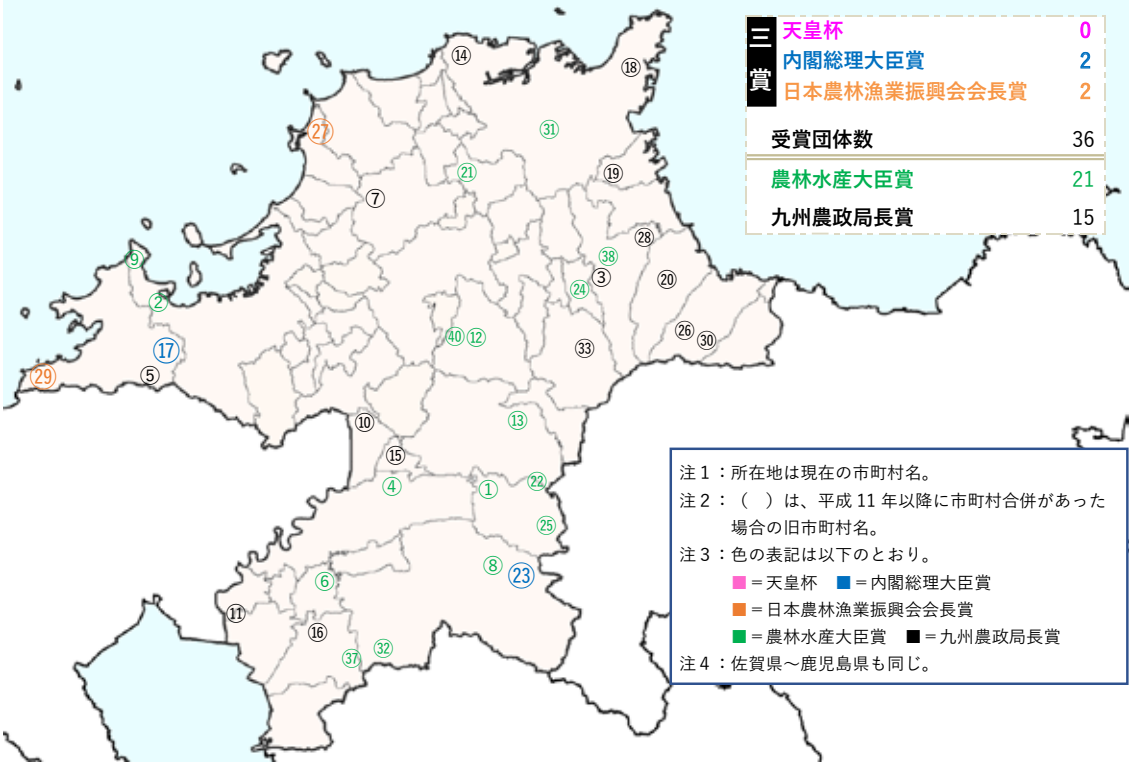
年度	天皇杯	内閣総理大臣賞	日本農林漁業振興会会長賞
昭和 54 年度	新しいむらづくり推進委員会 （愛媛県 伊方町）	根小屋集落連合会 （秋田県 北秋田市）	—
55 年度	**麦生集落** **（鹿児島県 屋久島町）**	古見をよくする会 （岡山県 真庭市）	—
56 年度	梓山集落 （長野県 川上村）	松神集落 （鳥取県 北栄町）	—
57 年度	姥屋敷集落 （岩手県 滝沢村）	野田区 （愛知県 田原市）	—
58 年度	東部地区振興協議会 （山形県 小国町）	新しいむらづくり推進会議 （栃木県 那須塩原市）	—
59 年度	**玖珠町山田地区** **（大分県 玖珠町）**	広船部落会 （青森県 平川市）	—
60 年度	飯田集落 （島根県 益田市）	荷軽部部落会 （岩手県 久慈市）	—
61 年度	大木区 （愛知県 豊川市）	**小串自治会** **（長崎県 新上五島町）**	—
62 年度	清助新田むらづくり委員会 （山形県 寒河江市）	八千代町コミュニティー推進委員会 （茨城県 八千代町）	—
63 年度	**諸塚村自治公民館連絡協議会** **（宮崎県 諸塚村）**	円城寺地区 （滋賀県 愛荘町）	両向自治会 （岩手県 住田町）
平成元年度	熊地区活性化推進協議会 （静岡県 浜松市）	七軒地域づくり推進協議会 （山形県 大江町）	浅川生活環境改善実行委員会 （徳島県 海陽町）
2 年度	**上別府東部地区むらづくり振興会** **（鹿児島県 南九州市）**	大原地区 （鳥取県 倉吉市）	水と緑の村づくり推進会議 （福井県 大野市）
3 年度	**岩戸村づくり実行委員会** **（長崎県 雲仙市）**	福釜町内会 （愛知県 安城市）	下帯島部落会 （岩手県 洋野町）
4 年度	**国頭むらづくり委員会** **（鹿児島県 和泊町）**	小郷区 （岐阜県 中津川市）	琴浦集落 （新潟県 佐渡市）
5 年度	和光地区自治会 （岩手県 金ヶ崎町）	琵琶池村づくり推進協議会 （栃木県 大田原市）	**大見集落** **（熊本県 宇城市）**
6 年度	**大塚むらづくり委員会** **（鹿児島県 枕崎市）**	西塩沢農村整備促進委員会 （長野県 立科町）	森藤むらづくり推進協議会 （徳島県 吉野川市）
7 年度	三隅町上地区発展対策協議会 （山口県 長門市）	**新怡土むらづくり推進協議会** **（福岡県 糸島市）**	四郷自治振興協議会 （和歌山県 かつらぎ町）
8 年度	秋津野塾 （和歌山県 田辺市）	土呂部地区水芭蕉の郷づくり推進委員会 （栃木県 日光市）	**菊永むらづくり推進委員会** **（鹿児島県 南九州市）**
9 年度	**南波多町農業振興協議会** **（佐賀県 伊万里市）**	大井平集落 （新潟県 津南町）	大和むらづくり会議 （鳥取県 鳥取市）
10 年度	**上場自治公民館** **（鹿児島県 出水市）**	農事組合法人 犬甘野営農組合 （京都府 亀岡市）	蒔田むらづくり推進協議会 （青森県 五所川原市）
11 年度	石川郷中 （秋田県 八峰町）	（農業生産法人、有限会社）農業公園信貴山のどか村 （奈良県 三郷町）	**西与賀地域実践協議会** **（佐賀県 佐賀市）**
12 年度	**正名字** **（鹿児島県 知名町）**	中石自治会 （秋田県 男鹿市）	常吉村づくり委員会 （京都府 京丹後市）
13 年度	仁保地域開発協議会 （山口県 山口市）	**星野村農業・農村を考える会** **（福岡県 八女市）**	舞岡ふるさと村推進協議会 （神奈川県 横浜市）
14 年度	大井沢区 （山形県 西川町）	**夢ランド十町** **（熊本県 和水町）**	一木自治振興区 （広島県 庄原市）
15 年度	綾織町地域づくり連絡協議会 （岩手県 遠野市）	小川区 （岐阜県 郡上市）	豊永開発振興会 （岡山県 新見市）
16 年度	**松本集落** **（大分県 宇佐市）**	農事組合法人 いくみ （静岡県 島田市）	上鹿妻第一地区協同組合 （岩手県 盛岡市）
17 年度	渡慶次集落 （沖縄県 読谷村）	十和村おかみさん市 （高知県 四万十町）	**あんずの里市利用組合** **（福岡県 福津市）**
18 年度	**ふき活性化協議会** **（大分県 豊後高田市）**	共栄地区を良くする会 （和歌山県 印南町）	中村集落 （秋田県 横手市）
19 年度	伊座利の未来を考える推進協議会 （徳島県 美波町）	古座川ゆず平井の里 （和歌山県 古座川町）	**福吉地域づくり推進協議会** **（福岡県 糸島市）**
20 年度	櫛池地区農業振興会 （新潟県上越市）	田沢湖牛銘柄確立推進組合 （秋田県 仙北市）	**川内野集落** **（佐賀県 伊万里市）**
21 年度	**小城町農産物直売所「ほたるの郷」** **（佐賀県 小城市）**	喜屋武集落 （沖縄県 糸満市）	槻之屋振興会 （島根県 雲南市）
22 年度	下里農地・水・環境向上対策委員会 （埼玉県 小川町）	大野ヶ原開拓組合 （愛媛県 西予市）	**特定非営利活動法人 かまえブルーツーリズム研究会** **（大分県 佐伯市）**
23 年度	農事組合法人 宮守川上流生産組合 （岩手県 遠野市）	奥能登春蘭の里実行委員会 （石川県 能登町）	**久富木区公民館** **（鹿児島県 さつま町）**
24 年度	浄門の里づくり協議会 （岩手県 二戸市）	NPO 法人 とうもんの会 （静岡県 掛川市）	**現和校区** **（鹿児島県 西之表市）**
25 年度	**田代自治会** **（宮崎県 えびの市）**	農事組合法人 ファーム大島 （富山県 射水市）	波瀬むらづくり協議会 （三重県 松阪市）
26 年度	自得地区環境保全会 （青森県 弘前市）	**染ヶ岡地区環境保全協議会** **（宮崎県 高鍋町）**	宮地集落 （岐阜県 郡上市）
27 年度	三芳町川越いも振興会 （埼玉県 三芳町）	須佐地区一本釣船団 （山口県 萩市）	農事組合法人 南檜垣営農組合 （奈良県 天理市）
28 年度	地域共同組合無茶々園 （愛媛県 西予市）	**大野地区公民館** **（鹿児島県 垂水市）**	ゆかい村風間浦鮫鰊ブランド戦略会議 （青森県 風間浦村）
29 年度	**阿室校区活性化対策委員会** **（鹿児島県 宇検村）**	からり直売所出荷者運営協議会 （愛媛県 内子町）	特定非営利活動法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会 （福島県 二本松市）
30 年度	本寺地区地域づくり推進協議会 （岩手県 一関市）	特定非営利活動法人 ゆうきハートネット （岐阜県 白川町）	**中津川区公民館** **（鹿児島県 さつま町）**
令和元年度	西江上区 （沖縄県 伊江村）	一般社団法人 竹田文化共栄会 （福井県 坂井市）	由良地域協議会「ゆらまちっく戦略会議」 （山形県 鶴岡市）
2 年度	高根フロンティアクラブ （新潟県 村上市）	湯原集落協定 （宮城県 七ヶ宿町）	農事組合法人 ゆめ野山 （奈良県 五條市）
3 年度	**白糸第一自治振興会** **（熊本県 山都町）**	企業組合さくらの郷 （福島県 二本松市）	伊自良の里・食と農推進協議会 （福井県 福井市）
4 年度	稲倉の棚田保全委員会 （長野県 上田市）	下集落支援事業委員会 （京都府 南丹市）	（株）Mt.ファームわかとち （新潟県 小千谷市）
5 年度	百姓百品グループ （愛媛県 西予市）	越沢自治会 （山形県 鶴岡市）	一般団法人押井営農組合 （愛知県 豊田市）
6 年度	えーひだカンパニー株式会社 （島根県 安来市）	中泊町農産物加工販売施設出荷者協議会 （青森県 北津軽郡中泊町）	特定非営利活動法人アグリやさと （茨城県 石岡市）
7 年度	入谷の里山活性化協議会 （宮城県 本吉郡南三陸町）	農事組合法人農村資源開発共同体 （福井県今立郡池田町）	**竹子地区コミュニティ協議会** **（鹿児島県 霧島市）**

注１：むらづくり部門の日本農林漁業振興会会長賞は昭和 63 年度に新設
注２：太字・着色は九州の受賞団体

3. これまでの受賞団体一覧表（九州県別）

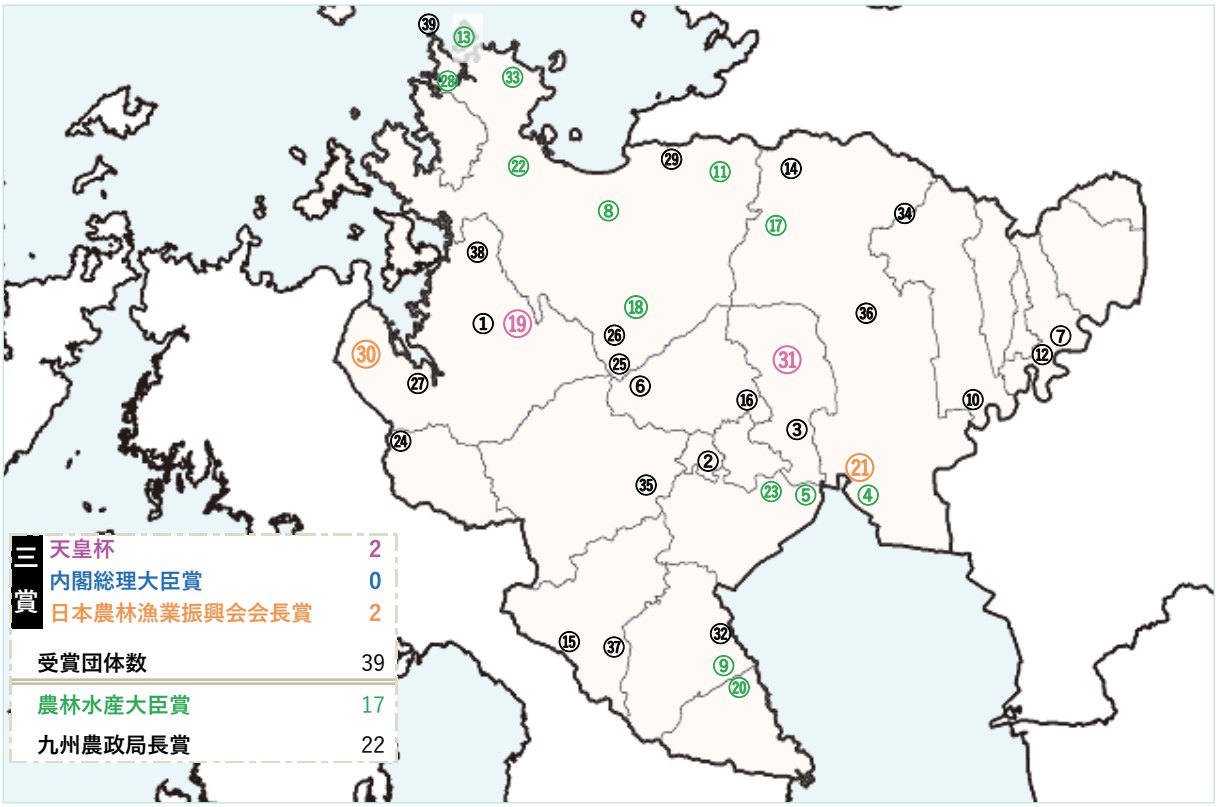
福岡県

年度	団体名	所在地		年度	団体名	所在地	
昭 和 54 年度	末石集落	うきは市（吉井町）	①	15 年度	小塩んホタルの里づくり協議会	うきは市（浮羽町）	㉕
55 年度	元岡地区	福岡市	②	16 年度	岩屋地区活性化協議会	豊前市	㉖
56 年度	犀川町崎山区	みやこ町（犀川町）	③	17 年度	あんずの里市利用組合	福津市（津屋崎町）	㉗
57 年度	住みよい弓削をつくる会	久留米市（北野町）	④	18 年度	豊津町営農生産組合	みやこ町（豊津町）	㉘
58 年度	雷山地区	糸島市（前原市）	⑤	19 年度	福吉地域づくり推進協議会	糸島市（二丈町）	㉙
59 年度	前津地区	筑後市	⑥	20 年度	合河ゆず祭り実行委員会	豊前市	㉚
60 年度	日吉地区	宮若市（若宮町）	⑦	21 年度	合馬校区まちづくり協議会地域振興部会	北九州市	㉛
61 年度	椋谷地区	八女市（星野村）	⑧	22 年度	松尾百笑村	八女市（立花町）	㉜
62 年度	西浦地区	福岡市	⑨	23 年度	上津野村づくり推進協議会	添田町	㉝
63 年度	西小田営農組合	筑紫野市	⑩	24 年度	—	—	
平 成 元年度	紅粉屋地区村づくり推進協議会	大川市	⑪	25 年度	—	—	
2 年度	宮小路果樹組合	嘉麻市（嘉穂町）	⑫	26 年度	—	—	
3 年度	高木むらおこし対策協議会	朝倉市（甘木市）	⑬	27 年度	伍位軒集落	みやま市（山川町）	㊲
4 年度	有毛地区	北九州市	⑭	28 年度	くまわり会	みやこ町（犀川町）	㊳
5 年度	冨多区	大刀洗町	⑮	29 年度	—	—	
6 年度	瀬高町地域農業振興協議会	みやま市（瀬高町）	⑯	30 年度	小野谷行政区	嘉麻市（嘉穂町）	㊵
7 年度	新怡土むらづくり推進協議会	糸島市（前原市）	⑰	令 和 元年度	—	—	
8 年度	猿喰地区	北九州市	⑱	2 年度	—	—	
9 年度	等覚寺地区	苅田町	⑲	3 年度	—	—	
10 年度	いわまる共和国	築上町（椎田町）	⑳	4 年度	—	—	
11 年度	新入農業農村活性化実行委員会	直方市	㉑	5 年度	—	—	
12 年度	杷木町農林業等総合振興対策協議会	朝倉市（杷木町）	㉒	6 年度	—	—	
13 年度	星野村農業・農村を考える会	八女市（星野村）	㉓	7 年度	—	—	
14 年度	赤村特産物センター運営協議会	赤村	㉔				



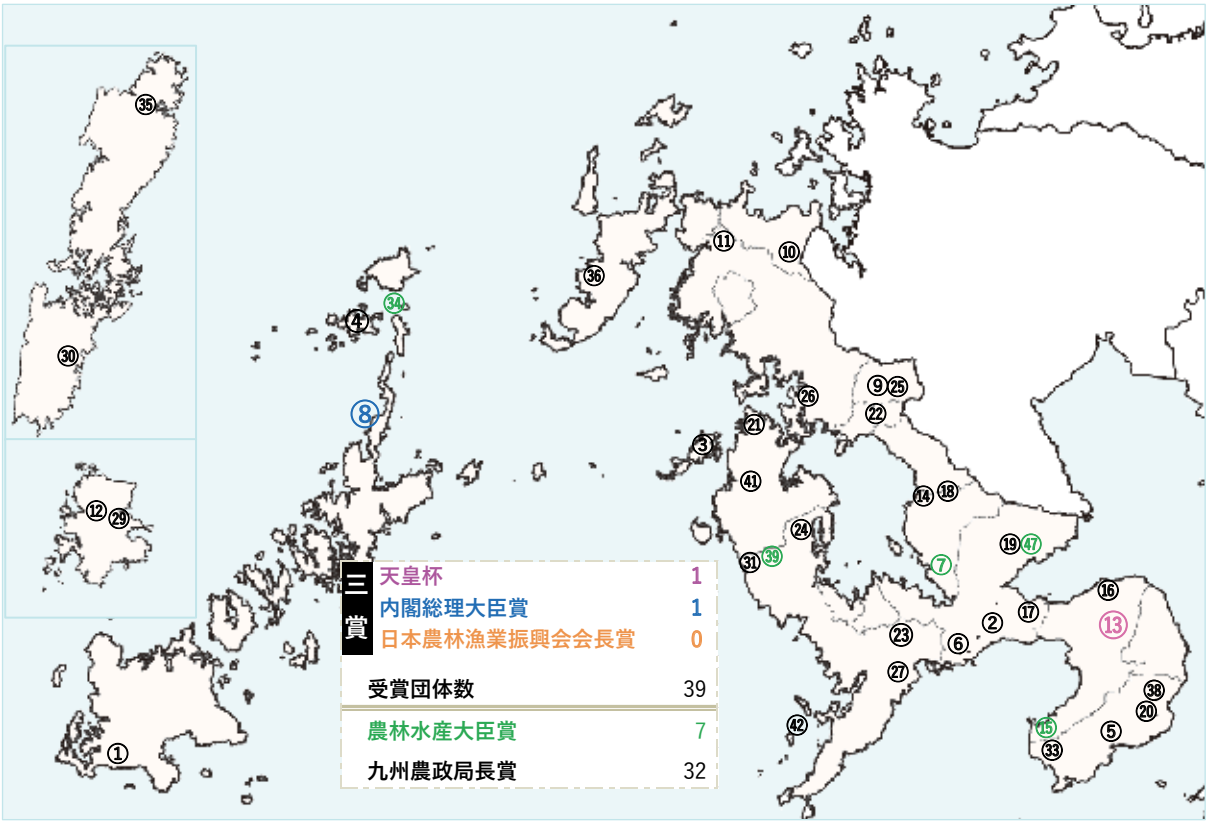
佐賀県

年度	団体名	所在地		年度	団体名	所在地	
昭和54年度	南波多町農業振興協議会	伊万里市	①	15年度	蕨野地区	唐津市（相知町）	㉕
55年度	畑ケ田集落	大町町	②	16年度	JA佐賀松浦奥地の里直販所利用運営協議会	唐津市（相知町）	㉖
56年度	練ケ里集落	小城市（牛津町）	③	17年度	脇野集落	伊万里市	㉗
57年度	大野集落	佐賀市（東与賀町）	④	18年度	桃山天下市会	唐津市（鎮西町）	㉘
58年度	福富町北区	白石町（福富町）	⑤	19年度	大白木活力あるむらづくり推進委員会	唐津市（七山村）	㉙
59年度	西多久地区拠点地域実践協議会	多久市	⑥	20年度	**川内野集落**	**伊万里市**	**㉚**
60年度	市原地区	みやき町（北茂安町）	⑦	21年度	**小城町農産物直売所「ほたるの郷」**	**小城市（小城町）**	**㉛**
61年度	半田地区	唐津市	⑧	22年度	嘉瀬の浦区	鹿島市	㉜
62年度	半田地区	鹿島市	⑨	23年度	玄海みなとん里株式会社	唐津市	㉝
63年度	千代田町小森田地区	神埼市（千代田町）	⑩	24年度	佐賀北部地域おこしフェスティバル実行委員会	佐賀市・神埼市（富士町・三瀬村・脊振村）	㉞
平成元年度	七山村振興協議会	唐津市（七山村）	⑪	25年度	橘町まちづくり推進協議会	武雄市	㉟
2年度	ここほれジュッタンポ会	みやき町（三根町）	⑫	26年度	株式会社そよかぜ館	佐賀市（大和町）	㊱
3年度	加部島地区	唐津市（呼子町）	⑬	27年度	吉田地区	嬉野市（嬉野町）	㊲
4年度	羽金山振興会	佐賀市（富士町）	⑭	28年度	波多津町まちづくり運営協議会	伊万里市	㊳
5年度	清水集落	嬉野市（嬉野町）	⑮	29年度	松島集落	唐津市（鎮西町）	㊴
6年度	北坊集落	多久市	⑯	30年度	—	—	
7年度	杉山集落	佐賀市（富士町）	⑰	令和元年度	—	—	
8年度	伊岐佐上集落	唐津市（相知町）	⑱	2年度	—	—	
9年度	**南波多町農業振興協議会**	**伊万里市**	**⑲**	3年度	—	—	
10年度	伊福集落	太良町	⑳	4年度	—	—	
11年度	**西与賀地域実践協議会**	**佐賀市**	**㉑**	5年度	—	—	
12年度	大良むらぐるみ運動実践協議会	唐津市	㉒	6年度	—	—	
13年度	福富地域むらぐるみ運動実践協議会	白石町（福富町）	㉓	7年度	—	—	
14年度	岳集落	有田町（西有田町）	㉔				



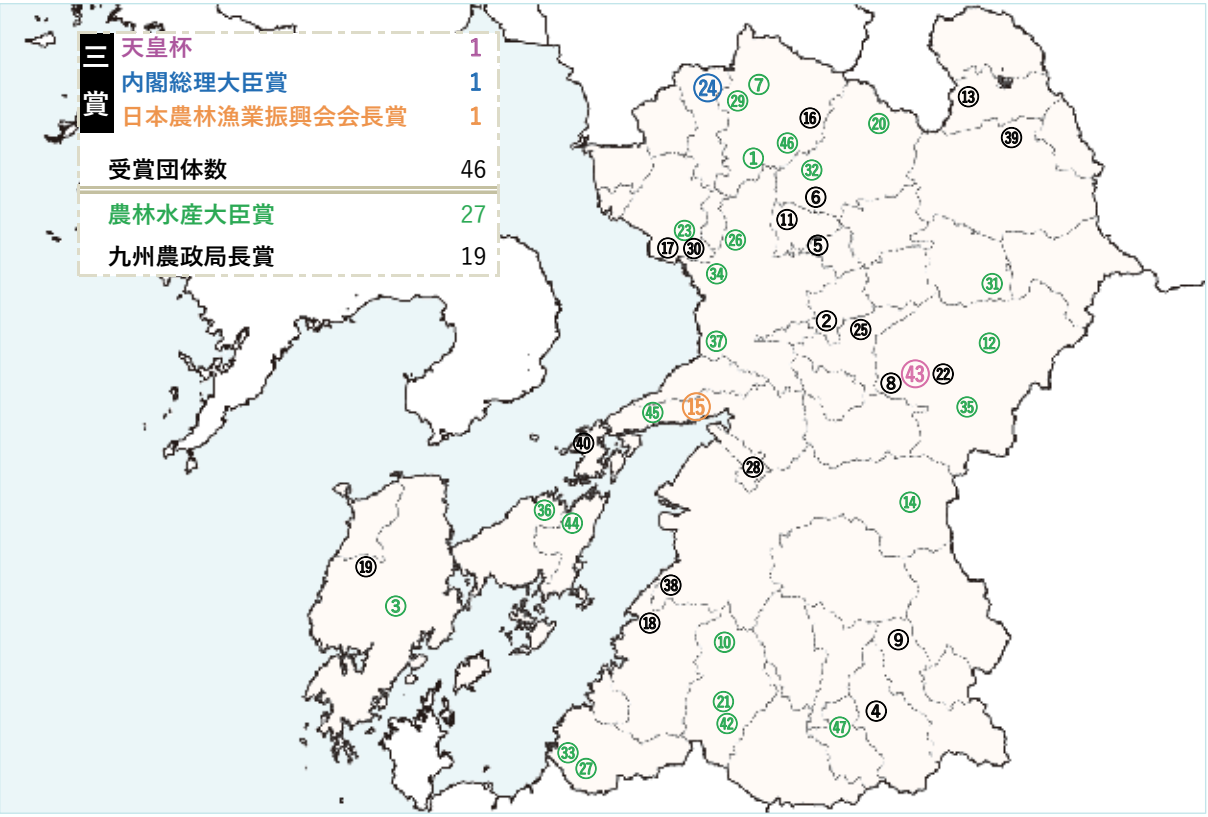
長崎県

年度	団体名	所在地		年度	団体名	所在地	
昭和54年度	大宝肉用牛生産組合	五島市（玉之浦町）	①	15年度	鬼木郷地区	波佐見町	㉕
55年度	有喜地区むらづくり推進委員会	諫早市	②	16年度	わくわくふれあい市利用組合	佐世保市	㉖
56年度	大島町むらづくり運営委員会	西海市（大島町）	③	17年度	中尾地区農業振興協議会	長崎市	㉗
57年度	緑を守る小値賀町青年連合会	小値賀町	④	18年度	—	—	
58年度	北有馬町むらづくり推進委員会	南島原市（北有馬町）	⑤	19年度	芦辺湯岳生産組合	壱岐市（芦辺町）	㉙
59年度	開名囲組	諫早市（飯盛町）	⑥	20年度	内山地区むらづくり代表者会	対馬市（厳原町）	㉚
60年度	鈴田地区開発振興会	大村市	⑦	21年度	大中尾棚田保全組合	長崎市（外海町）	㉛
61年度	**小串郷自治会**	**新上五島町（新魚目町）**	⑧	22年度	—	—	
62年度	川内郷振興会	波佐見町	⑨	23年度	後登龍活性化委員会	南島原市（加津佐町）	㉝
63年度	田ノ平免	松浦市	⑩	24年度	特定非営利活動法人おぢかアイランドツーリズム協会	小値賀町	㉞
平成元年度	根引農事研究会	佐世保市（江迎町）	⑪	25年度	佐護ヤマネコ稲作研究会	対馬市（上県町）	㉟
2年度	惣清地区生活改善グループ	壱岐市（芦辺町）	⑫	26年度	根獅子集落機能再編協議会	平戸市	㊱
3年度	**岩戸村づくり実行委員会**	**雲仙市（瑞穂町）**	⑬	27年度	—	—	
4年度	松原地域掘り起こし実行委員会	大村市	⑭	28年度	一般社団法人南島原ひまわり観光協会	南島原市	㊳
5年度	南串山町新農業研究会	雲仙市（南串山町）	⑮	29年度	大中尾棚田保全組合	長崎市（外海町）	㊴
6年度	高田むらづくり実行委員会	雲仙市（瑞穂町）	⑯	30年度	—	—	
7年度	田尻名干拓部落	諫早市（森山町）	⑰	令和元年度	さいかい元気村協議会	西海市	㊶
8年度	野岳山麓農村活性化協議会	大村市	⑱	2年度	やったろう de 高島	長崎市（高島町）	㊷
9年度	折山集落	諫早市（高来町）	⑲	3年度	—	—	
10年度	赤仁田営農組合	南島原市（西有家町）	⑳	4年度	—	—	
11年度	よかところ実行委員会	西海市（西海市）	㉑	5年度	—	—	
12年度	中山・五反田里づくりの会	川棚町	㉒	6年度	—	—	
13年度	現川物産館じげもん市	長崎市	㉓	7年度	幻の高来そば振興協議会	諫早市（高来町）	㊼
14年度	「きんかい味彩市」生産者の会	長崎市（琴海町）	㉔				



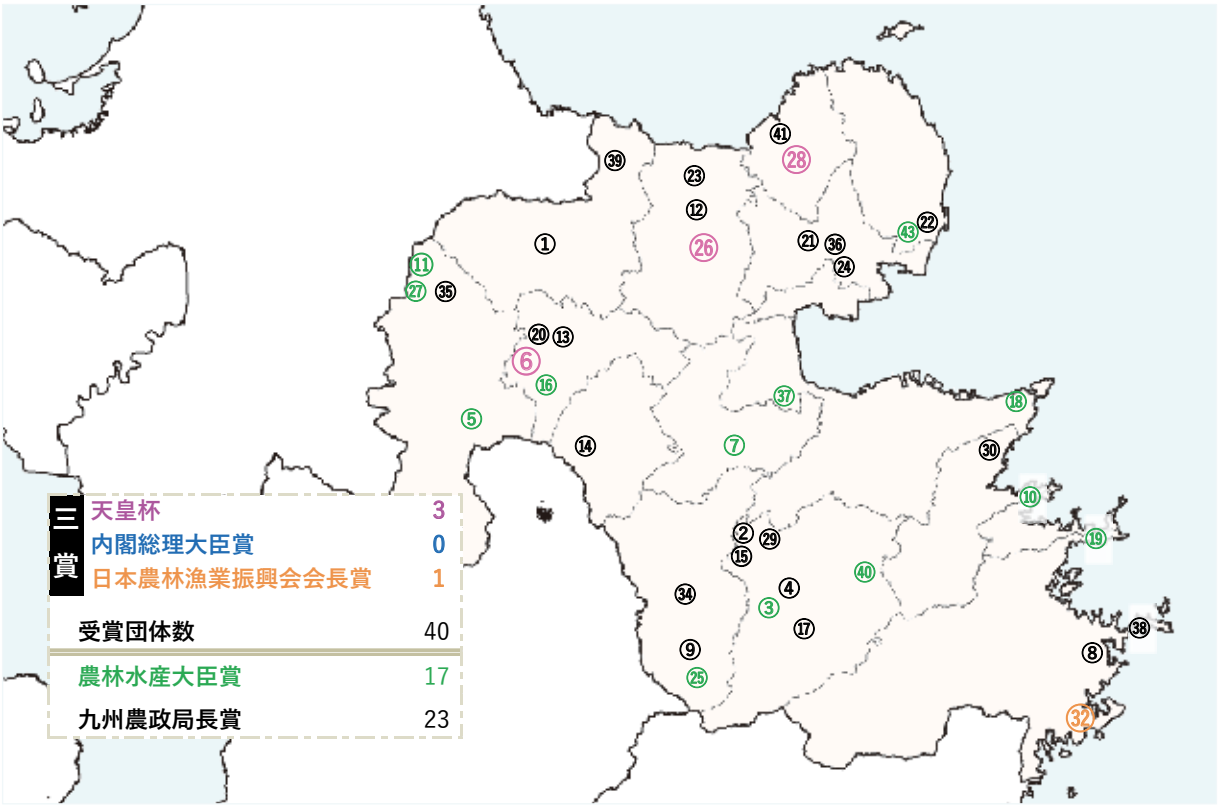
熊本県

年度	団体名	所在地		年度	団体名	所在地	
昭和54年度	馬見塚振興会	山鹿市	①	15年度	八勢地区	御船町	㉕
55年度	小池・秋永地区	益城町	②	16年度	西里とれたて市会	熊本市	㉖
56年度	碇石地区	天草市（新和町）	③	17年度	村丸ごと生活博物館頭石	水俣市	㉗
57年度	清水地区	あさぎり町（上村）	④	18年度	吉野梨研究同志会	氷川町（竜北町）	㉘
58年度	堀川地区	菊陽町	⑤	19年度	平小城活性化協議会	山鹿市	㉙
59年度	福本地区	菊池市	⑥	20年度	天水農産物直売所協議会「てんすい郷〇市」	玉名市（天水町）	㉚
60年度	小坂地区	山鹿市	⑦	21年度	両併地区	南阿蘇村（白水村）	㉛
61年度	島木地区	山都町（矢部町）	⑧	22年度	七城ホタルを育てる会	菊池市（七城町）	㉜
62年度	柳野集落	多良木町	⑨	23年度	村丸ごと生活博物館越小場地区	水俣市	㉝
63年度	球磨村森林組合	球磨村	⑩	24年度	東門寺集落	熊本市	㉞
平成元年度	江良区	合志市（西合志町）	⑪	25年度	菅地域振興会	山都町（矢部町）	㉟
2年度	熊本清和農業協同組合	山都町（清和村）	⑫	26年度	大浦地区振興会	天草市（有明町）	㊱
3年度	中湯田集落	南小国町	⑬	27年度	天明環境保全隊	熊本市	㊲
4年度	五家荘平家の里管理組合	八代市（泉村）	⑭	28年度	ＮＰＯ法人二見わっしょいファーム	八代市	㊳
5年度	大見集落	宇城市（不知火町）	⑮	29年度	手野名水会	阿蘇市（一の宮町）	㊴
6年度	阿佐古集落	山鹿市（菊鹿町）	⑯	30年度	上天草物産館さんぱーる出荷協議会	上天草市	㊵
7年度	横島町特産物振興協会	玉名市（横島町）	⑰	令和元年度	—	—	
8年度	横居木集落	芦北町（田浦町）	⑱	2年度	田舎の体験交流館さんがうら運営委員会	球磨村	㊷
9年度	福連木地区	天草市（天草町）	⑲	3年度	白糸第一自治振興会	山都町（矢部町）	㊸
10年度	鳳来地区	菊池市	⑳	4年度	JA あまくさ女性部大矢野総支部	上天草市（大矢野町）	㊹
11年度	毎床地区	球磨村	㉑	5年度	三角サトウキビ活性会	宇城市	㊺
12年度	入佐地区	山都町（矢部町）	㉒	6年度	農事組合法人　庄の夢	山鹿市	㊻
13年度	尾田地区	玉名市（天水町）	㉓	7年度	錦町農産物等直売所出荷協議会	錦町	㊼
14年度	夢ランド十町	和水町（三加和町）	㉔				



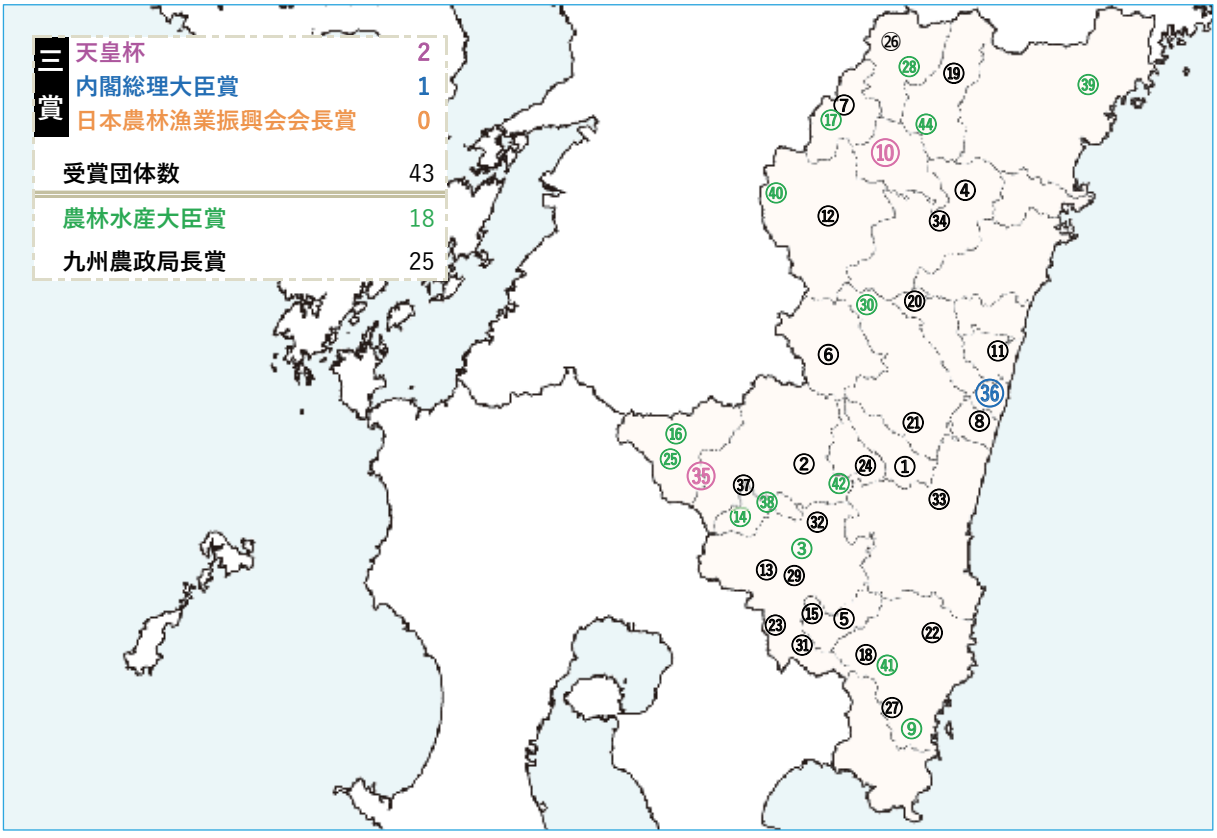
大分県

年度	団体名	所在地		年度	団体名	所在地	
昭和54年度	鎌城酪農部	中津市（耶馬溪町）	①	15年度	九重野地区担い手育成推進協議会	竹田市	㉕
55年度	温見地区	豊後大野市（朝地町）	②	16年度	松本集落	宇佐市（安心院町）	㉖
56年度	草深野集落	豊後大野市（緒方町）	③	17年度	大肥郷ふるさと農業振興会	日田市	㉗
57年度	津留農地利用組合	豊後大野市（大野町）	④	18年度	ふき活性化協議会	豊後高田市	㉘
58年度	大山町農業協同組合	日田市（大山町）	⑤	19年度	温見地区	豊後大野市（朝地町）	㉙
59年度	山田西区	玖珠町	⑥	20年度	藤河内・元気なむらづくりの会	臼杵市	㉚
60年度	住みよい豊かなむらにする会	由布市（庄内町）	⑦	21年度	—	—	
61年度	大分県漁業協同組合米水津支店	佐伯市（米水津村）	⑧	22年度	NPO法人かまえブルーツーリズム研究会	佐伯市（蒲江町）	㉜
62年度	荻町恵良原地区	竹田市（荻町）	⑨	23年度	—	—	
63年度	長目地区むらづくり推進協議会	津久見市	⑩	24年度	農事組合法人紫草の里営農組合	竹田市	㉞
平成元年度	大鶴地区	日田市	⑪	25年度	農事組合法人小野谷	日田市	㉟
2年度	下矢部地区	宇佐市	⑫	26年度	農事組合法人こめ・こめ・くらぶ	杵築市（山香町）	㊱
3年度	古後地区活性化委員会	玖珠町	⑬	27年度	内成の棚田とむらづくりを考える会	別府市	㊲
4年度	菅原自治会	九重町	⑭	28年度	間越地区活性化推進協議会	佐伯市（米水津村）	㊳
5年度	綿田地区自治会	豊後大野市（朝地町）	⑮	29年度	三光コスモス祭り実行委員会	中津市（三光村）	㊴
6年度	小田生き活き健康村実行委員会	玖珠町	⑯	30年度	農事組合法人芦刈農産	豊後大野市（三重町）	㊵
7年度	清川町林業研究グループ	豊後大野市（清川町）	⑰	令和元年度	農事組合法人グリーンファーム畑	豊後高田市	㊶
8年度	木佐上コミュニティ	大分市（佐賀関町）	⑱	2年度	—	—	
9年度	深良津二世会	津久見市	⑲	3年度	農事組合法人いけのうち	国東市（武蔵町）	㊸
10年度	山下を良くする会	玖珠町	⑳	4年度	—	—	
11年度	竜船蛟の里づくりの会	杵築市（山香町）	㉑	5年度	—	—	
12年度	山口陽農会	国東市（安岐町）	㉒	6年度	—	—	
13年度	下城井農用地改善組合	宇佐市	㉓	7年度	—	—	
14年度	新庄むらづくり協議会	杵築市	㉔				



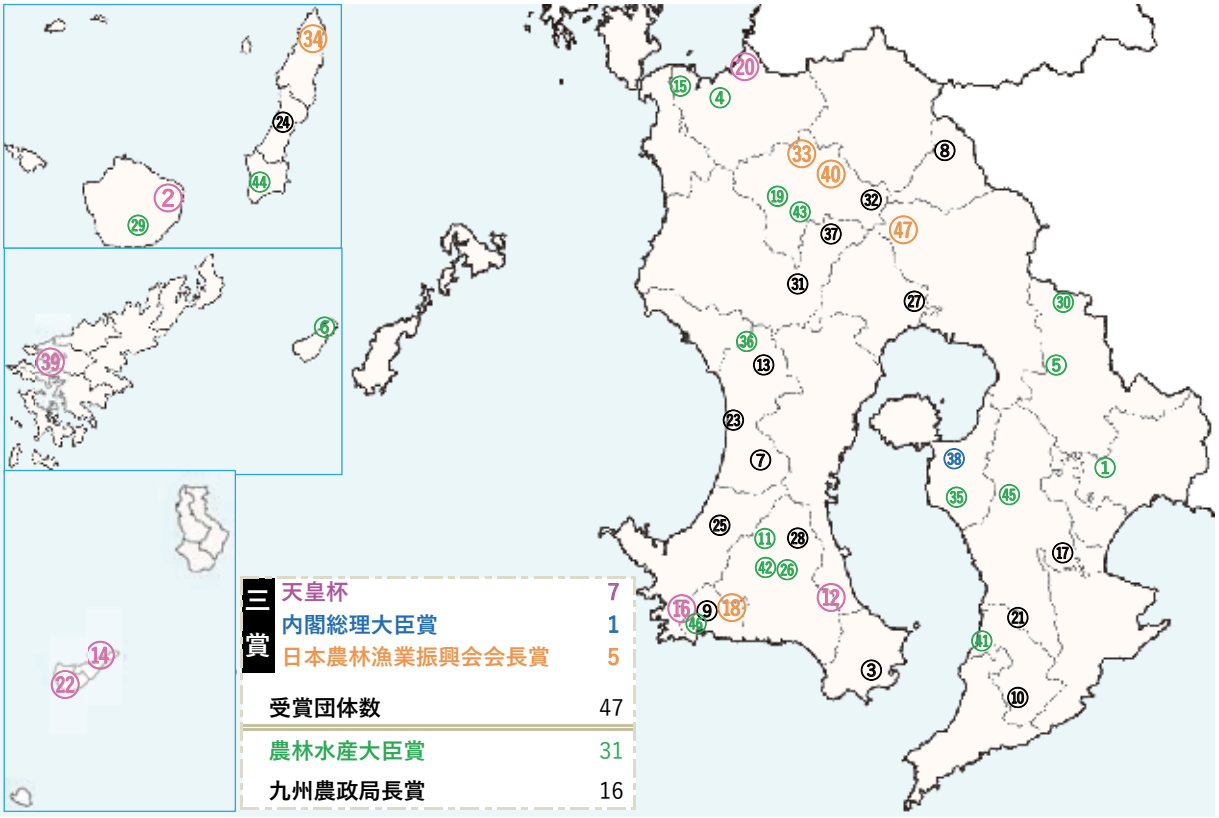
宮崎県

年度	団体名	所在地		年度	団体名	所在地	
昭和54年度	国富町新農業振興対策協議会	国富町	①	15年度	西長江浦むらづくり協議会	えびの市	㉕
55年度	内山集落	小林市（須木村）	②	16年度	高千穂町下野西集落	高千穂町	㉖
56年度	笛水集落	都城市（高崎町）	③	17年度	南平営農組合	日南市	㉗
57年度	細宇納間公民館	美郷町（北郷村）	④	18年度	五ケ村地区むらづくり協議会	高千穂町	㉘
58年度	長田地区公民館	三股町	⑤	19年度	薄谷むらづくり推進協議会	都城市	㉙
59年度	西米良果樹振興協議会	西米良村	⑥	20年度	銀鏡むらづくり推進会	西都市	㉚
60年度	宮の原地区	五ヶ瀬町	⑦	21年度	NPO法人正応寺ごんだの会	都城市	㉛
61年度	日置地区	新富町	⑧	22年度	高崎町笛水地区活性化委員会	都城市（高崎町）	㉜
62年度	新しい村づくり推進委員会	日南市（南郷町）	⑨	23年度	下小松集落営農組合	宮崎市	㉝
63年度	**諸塚村自治公民館連絡協議会**	**諸塚村**	⑩	24年度	上野原地区集落営農組合	美郷町（西郷村）	㉞
平成元年度	清水･孫谷農事振興組合	川南町	⑪	25年度	**田代自治会**	**えびの市**	㉟
2年度	桑の実生活改善グループ	椎葉村	⑫	26年度	**染ヶ岡地区環境保全協議会**	**高鍋町**	㊱
3年度	上南山田地区営農振興組合	都城市（山田町）	⑬	27年度	北きりしま田舎物語推進協議会	小林市･高原町･えびの市	㊲
4年度	花堂むらおこしグループ	高原町	⑭	28年度	農事組合法人はなどう	高原町	㊳
5年度	笠祇地区村づくり推進協議会	串間市	⑮	29年度	川坂川を守る会	延岡市（北川町）	㊴
6年度	池島区	えびの市	⑯	30年度	焼畑蕎麦苦楽部	椎葉村	㊵
7年度	宮の原むらづくり推進協議会	五ヶ瀬町	⑰	令和元年度	酒谷地区むらおこし推進協議会	日南市	㊶
8年度	酒谷地区むらおこし推進協議会	日南市	⑱	2年度	一里山地区ふるさとづくり推進協議会	宮崎市（高岡町）	㊷
9年度	鹿川集落	日之影町	⑲	3年度	—	—	
10年度	中之又ふれあい里づくり協議会	木城町	⑳	4年度	大人発電農業協同組合	日之影町	㊸
11年度	石野田集落	西都市	㉑	5年度	—	—	
12年度	大藤地区推進委員会	日南市（北郷町）	㉒	6年度	—	—	
13年度	横市農用地利用改善組合	都城市	㉓	7年度	—	—	
14年度	綾町有機農業実践振興会	綾町	㉔				



鹿児島県

年度	団体名	所在地		年度	団体名	所在地	
昭和54年度	蓬原中野小組合	志布志市(有明町)	①	15年度	舞敷野公民館	南さつま市(加世田市)	㉕
55年度	麦生集落	屋久島町(屋久町)	②	16年度	高田むらづくり委員会	南九州市(川辺町)	㉖
56年度	浜児ケ水区	指宿市(山川町)	③	17年度	小山田地区むらづくり委員会	姶良町(加治木町)	㉗
57年度	高尾野千間山集落	出水市(高尾野町)	④	18年度	塗木むらづくり推進委員会	南九州市(知覧町)	㉘
58年度	帯野地区	曽於市(財部町)	⑤	19年度	原区むらづくり委員会	屋久島町(屋久町)	㉙
59年度	小野津地区	喜界町	⑥	20年度	中谷地区むらづくり委員会	曽於市(財部町)	㉚
60年度	永野地区	日置市(吹上町)	⑦	21年度	大馬越地区コミュニティ協議会	薩摩川内市(入来町)	㉛
61年度	川添地区	湧水町(吉松町)	⑧	22年度	永野区むらづくり委員会	さつま町(薩摩町)	㉜
62年度	桜馬場地区	枕崎市	⑨	23年度	久富木区公民館	さつま町(宮之城町)	㉝
63年度	花瀬地区むらづくり推進協議会	錦江町(田代町)	⑩	24年度	現和校区	西之表市	㉞
平成元年度	永田地区営農振興会	南九州市(川辺町)	⑪	25年度	新城地区公民館	垂水市	㉟
2年度	上別府東部地区むらづくり振興会	南九州市(頴娃町)	⑫	26年度	高山地区公民館	日置市(東市来町)	㊱
3年度	田代地区むらづくり振興会	日置市(東市来町)	⑬	27年度	黒木地区コミュニティ協議会	薩摩川内市(祁答院町)	㊲
4年度	国頭むらづくり委員会	和泊町	⑭	28年度	大野地区公民館	垂水市	㊳
5年度	青木地区	出水市(野田町)	⑮	29年度	阿室校区活性化対策委員会	宇検村	㊴
6年度	大塚村づくり委員会	枕崎市	⑯	30年度	中津川区公民館	さつま町(薩摩町)	㊵
7年度	大迫むらづくり推進委員会	鹿屋市(串良町)	⑰	令和元年度	宿利原地区公民館	錦江町(大根占町)	㊶
8年度	菊永むらづくり推進委員会	南九州市(知覧町)	⑱	2年度	高田村づくり委員会	南九州市(川辺町)	㊷
9年度	時吉区公民館	さつま町(宮之城町)	⑲	3年度	一ツ木公民会	さつま町(宮之城町)	㊸
10年度	上場自治公民館	出水市	⑳	4年度	茎永地区自治公民館	南種子町	㊹
11年度	池田校区振興会	錦江町(大根占町)	㉑	5年度	高隈コミュニティ協議会	鹿屋市	㊺
12年度	正名字	知名町	㉒	6年度	夢蛍たぶがわ２０１６	枕崎市	㊻
13年度	扇尾公民館	日置市(日吉町)	㉓	7年度	竹子地区コミュニティ協議会	霧島市(溝辺町)	㊼
14年度	野間下地区むらづくり委員会	中種子町	㉔				



1.「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」とは？

趣　旨

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信するものです。

対象となる取組

◆美しく伝統ある農山漁村の次世代への継承
◆幅広い分野・地域との連携による農林水産業や農山漁村の再生
◆国内外の新たな需要に即した農林水産業の実現

◆「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第 12 回募集）



2.「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第 12 回選定結果)

令和 7 年 11 月 18 日（火）に有識者懇談会が開催され、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第 12 回選定）に 30 地区が選定されました。

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」に選定されたら・・・

マルシェの参加や SNS での情報発信、ウェブサイトにおける選定地区のおすすめ商品の紹介等のメリットがあります。選定地区からは、メディアで紹介される機会が増加し、関係者の意欲向上や売上げの増加につながったなどの声も多数寄せられています。

◆「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第 12 回選定結果）

＜コミュニティ・地産地消部門：13 地区＞

特定非営利活動法人ゆめみーる（北海道 登別市）
特定非営利活動法人 SCR（宮城県 富谷市）
庄内赤川土地改良区（山形県 鶴岡市・三川町・酒田市）
大谷グリーンツーリズム推進協議会（栃木県 宇都宮市）
esDGz OTAKI. EXE（千葉県 大多喜町）
伊自良の里・食と農推進協議会（福井県 福井市）
海女振興協議会（三重県 鳥羽市・志摩市）
東洋大学付属姫路高等学校地域活性部 PROJECT TOYO（兵庫県 姫路市）
十市町地域保全向上活動組織（奈良県 橿原市）
下町水土里会（鳥取県 八頭町）
株式会社あぐりてらす阿知須（山口県 山口市）
三高みんなの食堂プロジェクト（香川県 東かがわ市）
彼杵おもしろ河川団（長崎県 東彼杵町）

……グランプリ
……優秀賞

コミュニティ・地産地消部門
関係者の連携による活動で地域に活力をもたらす取組み等

＜ビジネス・イノベーション部門：14 地区＞

一般社団法人 Local Revolution（北海道 函館市）
株式会社スタディア（岩手県 滝沢市）
宮城県農業高等学校農業科作物部門（宮城県 名取市）
紅花推進協議会（山形県 山形市）
株式会社ウミゴー（静岡県 西伊豆町）
八米（HACHIBEI）（新潟県 阿賀野市）
フルタニランバー株式会社（石川県 金沢市）
「神都の祈り」産学官連携日本酒プロジェクト（三重県 明和町）
NPO 法人 愛のまちエコ倶楽部（滋賀県 東近江市）
大山乳業農業協同組合（鳥取県 琴浦町）
一般社団法人 そらの郷（徳島県 美馬市・三好市・つるぎ町・東みよし町）
高知農業高等学校畜産総合科 3 年　加工班（高知県 高知市）
かごしま深海魚研究会（鹿児島県 鹿児島市）
株式会社日本バイオテック（沖縄県 糸満市）

ビジネス・イノベーション部門
事業化を通じて所得向上や雇用を生み出す取組み等

＜個人部門：3 名＞

水口 清人（青森県 平川市）
深作 勝己（茨城県 鉾田市）
福岡 富士子（石川県 能美市）

個人部門
地域でリーダー的な活躍をしている者等

3．九州農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」選定結果

九州農政局においても、全国選定以外の優れた取組みについて、令和７年度九州農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として２団体・１個人を選定しました。

＜コミュニティ・地産地消部門：1団体＞

・一般社団法人福津いいざい（福岡県　福津市）～　地産地消から地産地商へ　～

取組概要：自治体（福津市）と市内の３つの直売所、認定農業者協議会、宗像漁協が中心となって一次生産者の収益向上のために地域商社を設立。地域商社として一次生産者の生鮮商品の販売や高付加価値な加工食品を開発製造、販売するほか、小中学校での食育教育や県産食品の認知拡大を推し進めている。売上額は令和２年度の１億 5600 万円から令和６年度は２億 3400 万円と順調に伸ばしている。

＜ビジネス・イノベーション部門：1団体＞

・株式会社うきはの宝（福岡県　うきは市）～　「ばあちゃんビジネス」ばあちゃんが働く会社　～

取組概要：農村の過疎地域から 75 歳以上のおばあちゃんたちへ働く仕事と働く場を創り、経済活動で生きがいと収入を創るために設立。地元農産物を活用した干し芋、調味料、羊羹作りなどを生産から販売まで一貫して行い、都市圏の消費者へオンラインショップ等で直販することによって事業収益を向上させるとともに、「ばあちゃん喫茶」を店舗展開し、ばあちゃんビジネスを他地域にも波及させている。年商は令和２年度の 250 万円から令和６年度は 1,700 万円と増加。

＜個人部門：1名＞

・高田　一人（宮崎県　日向市）　～　海業を核とした持続可能な地域活性化　～

取組概要：生まれ育った宮崎県日向市細島の活性化のため、海業として、①複合漁業・漁業の ICT 化、②ムラサキウニの陸上畜養実証実験、③他地区の漁業活動への参加、④観光（漁業体験）、⑤ワーケーション・デジタルノマドの受け入れ、⑥市場では流通しない巻貝の EC 販売に取り組んでいる。漁業水揚量は令和３年度の 1.7 トンから令和６年度は 3.7 トンに増加。

選定団体の取組み等については、農林水産省及び九州農政局のホームページをご覧ください。
農林水産省：　https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/discover.html
九州農政局：　https://www.maff.go.jp/kyusyu/keikaku/discover/discover.html

◆全国選定団体の紹介＜コミュニティ・地産地消部門＞

彼杵おもしろ河川団

～　私達は、自然の中の生物の一員である　～

長崎県　東彼杵町

林業

地産地消

環境保全（農林水産業・食品産業）


海水浴場跡地でのビーチクリーン


彼杵小学校林での間伐体験


魚道の改築の発案及び工事の監修

＜概要＞

・平成 18 年、豊かな大村湾の再生を目指し、海岸清掃からスタートし、川の整備へ展開。その後、間伐材や不要材を資源として活用する山林保全と資源循環の実践と仕組みづくりに着手。

・また、活動資金確保等のため、薪やタケノコなどを販売、地元ラーメン屋と連携した商品開発。加えて、人材確保のため、若者・大学・企業と協力し、新団体設立をサポート。

（成果）

・森・川・海をつなぐ循環的な保全モデルを確立。魚道改築（「第三の魚道」）が県の事業として決定し、改善に向け協議が進行中。海から川、川から山と徐々に整備活動を拡大し、川単独から「森・川・海」の一体的な保全へと発展し、今後の地域モデルとなりうる事例に成長。間伐材の薪販売などで事業規模を拡大（令和６年度の森林整備面積は 6.11ha）。東彼杵町の協力を得て、地域で４名の雇用を創出。

・観光業や自衛隊 OB などが新たに団体を設立し、森林・竹林整備を開始。希望者には「おもしろ河川団」のノウハウを提供し、森林、竹林整備の団体を設立。持続可能な活動と収益モデル拡大。

全国選定団体の紹介＜ビジネス・イノベーション部門＞

かごしま深海魚研究会

～　鹿児島を西の深海魚王国に！　～

鹿児島県　鹿児島市

水産業

企業との連携

地産地消


料理店によるうんまか深海魚メニュー開発


“もったいない”魚の種組成を調べる


うんまか深海魚を食べるイベント

＜概要＞

・漁業者の減少、高齢化が問題。併せて、深海魚資源が豊富にもかかわらず、消費されず海上投棄される種が多い。産学官でかごしま深海魚研究会を設立し、深海魚を核にした水産業・外食産業・観光産業の活性化を目指す取り組みを開始。

・大学の調査研究とプレゼン力を基盤に、生産者・流通業者・飲食店・加工業者と連携。「鹿児島を西の深海魚王国に」をスローガンに、未利用魚を「うんまか深海魚」ブランドとして商品化。

・消費者の目に触れない“もったいない魚”を収入源へ転換。浅海域の未利用魚も「うんまか希少魚」として活用開始。

（成果）

・研究会の参画店舗数は立ち上げ当初の 13 から約 50 店に増加。飲食店だけでなく量販店、鮮魚店、水産加工会社、個人会員も参加。マスコミ取材やドキュメンタリー番組出演等の情報発信は未利用魚の有効活用で漁業者の収入増加に貢献。

・消費拡大とブランド化により、漁業の後継者確保や地域漁業の持続性を支援。

・単発イベントに留まらず、持続的な食文化創出を推進。

【農林水産省ソーシャルメディア】

BUZZ MAFF
ばずまふ

BUZZ MAFF（ばずまふ）とは？

農林水産省職員自らが、省公式 YouTube チャンネルで YouTuber となるなど、担当業務にとらわれず、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良さや農林水産業、農山漁村の魅力を発信するプロジェクトです。



公式インスタグラムを始めました！
フォロー＆コメントをお願いします。

令和７年度　むらネット九州
（豊かなむらづくりをめざして）

発行：九州農政局
編集：農村振興部 農村計画課

〒860-8527
熊本市西区春日２丁目10番１号　熊本地方合同庁舎
TEL：096-211-9111（内線 4611）

九州農政局むらづくりのページ▼
http://www.maff.go.jp/kyusyu/keikaku/murazukuri/murazukuri.html

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。